

製品コンセプトをリニューアル!

薬局向け業務支援システム

MAPS for PHARMACY DX

薬局DXを実現することで時代の変化とニーズの多様性へ対応し、患者の健康をサポートします。



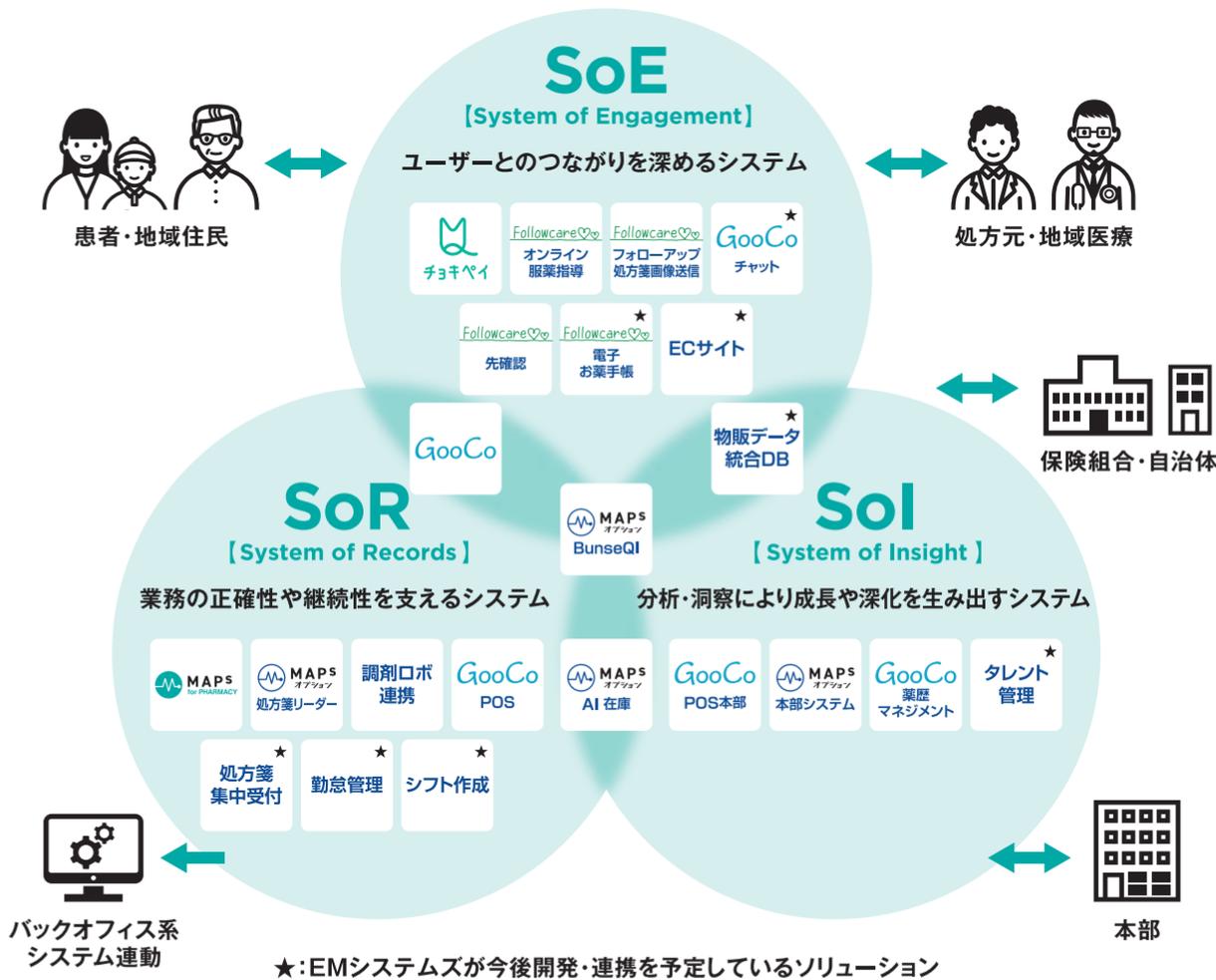
薬局DXを表現するオールクラウド・オールイワンコントロール。



薬局・薬剤師の「対人中心への転換」に対応したインテリジェンスサポート。



データドリブンな経営サポートとローコストオペレーションの支援。



月水金発行
薬事日報社
東京本社 〒101-8648
東京都千代田区神田和泉町1
☎(03) 3862-2141
FAX(03) 5821-8757
大阪支社 〒541-0045
大阪市中央区道修町2-1-10
☎(06) 6203-4191
FAX(06) 6233-3681
購読料 半年19,764円
(税込) 1年36,234円



第55回 日本薬剤師会学術大会 宮城

グッドサイクルシステム 共同出展

ブースにお越しいただいたお客様には、抽選で素敵な景品をプレゼント!



さらに! 弊社が運営する総合ポータルサイト「EM-AVALON」へ
その場で登録いただくともう1回抽選のチャンスをゲット!

会員登録はこちら!

<https://em-avalon.jp/myavalon>



EM 株式会社 EMシステムズ

WEBはこちら **EMシステムズ** **検索**

東京本社 | 〒105-0012 東京都港区芝大門2-10-12 KDX芝大門ビル
TEL:03-3432-5144(代表)

大阪本社 | 〒101-0054 大阪府大阪市淀川区宮原1-6-1 新大阪ブリックビル
TEL:06-6397-1888(代表)



第55回日本薬剤師会学術大会 / 共催：PHC株式会社

第55回日本薬剤師会学術大会 共催セミナー

皆様のご参加を
お待ちしております
います

電子処方箋で、医療機関・PHR・薬局の 連携がどうかかわるか

10/9 sun 12:30-13:30

第12会場 仙台国際センター展示棟
1階 会議室4-B

座長

株式会社フローラ 代表取締役

篠原 久仁子 先生

演者

厚生労働省 大臣官房総務課企画官
医薬・生活衛生局併任
電子処方箋サービス推進室長

伊藤 建 様

演者

PHC株式会社
メディコム事業部プロダクトマネジメント部
プロダクト戦略室 室長

香川 悟朗 氏

司会進行

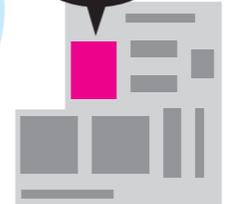
ドラビズ on-line 編集長

菅原 幸子 様

薬局業務の効率化と患者さんの
満足度向上に貢献。
メディコムは最新のICTのチカラで
保険薬局をサポートする様々な
システムを出展します。



10/9^{sat} - 10/10^{sun}
仙台国際センター展示棟
PHCブース展示
JF-3



ぜひ、お立ち寄りいただきメディコムのサービス・ソリューションをお確かめください!!

medicom

メディコムの事業案内
<https://www.phchd.com/jp/medicom/about>



オンラインデモ
<https://www.phchd.com/jp/medicom/onlinedemo>



D2272

剤形写真データをお探しの方へ!

医療用医薬品の剤形写真データは、電子カルテ、レセコン、薬歴管理システム、お薬手帳アプリなど、医薬品に係わる医療情報システムなどで広く利用されています。

薬事日報社の剤形写真データは、高解像度の写真と確実なメンテナンスが支持されています。

剤形写真データをご利用またはお探しの方は、この機会にぜひ、薬事日報社の剤形写真データをご確認ください。

剤形写真

検索

株式会社 薬事日報社
www.yakuji.co.jp



会場の仙台国際センター ©Aobayama Consortium

結—地域と共に未来へ

9、10日 仙台国際センターで開催

第55回日本薬剤師会学術大会(大会運営委員長・山田卓郎宮城県薬剤師会会長)が9、10の両日、仙台市の仙台国際センターで開催される。現地開催とウェブ配信によるハイブリッド方式で開催し、現地開催は2年ぶりとなる。宮城での学術大会は東日本大震災の影響で中止となった第44回学術大会から11年後の念願となる。震災復興を身近に感じる一大イベントになりそうだ。

2011年3月11日の東日本大震災で宮城県内は甚大な被害を受け、宮城県薬剤師も多く被災した。その年の学術大会開催地となっていたが、日薬は会員の生活再建を最優先し、やむなく大会中止を決定した。

震災から11年が経ち、念願の宮城大会開催となった。山田運営委員長は、「11年前の学術大会でできなかった東日本大震災からの復興をメインに据え、現地を見てもらうような学術大会にしたいと考えた。当時6000人近い薬剤師が宮城に支援に来ていたのだから、支障はなかった。薬剤師には復興を遂げている宮城の姿を

見ていただきたい」と語る。今大会のテーマは「結(ゆい)―地域と共に未来へ」に設定した。全国から宮城に駆けつけた支援薬剤師の活躍により、災害医療における薬剤師の重要性が認識されるようになった。

特別記念講演は、三つの特別講演、20の分科会、11のランチョンセミナー、24の口頭発表などが予定されている。特別記念講演には、賀来満夫氏(東北医科薬科大学医学部感染症学教室特任教授)が「新型コロナウイルス感染症が我々にもたらしたもの―現状と今後」をテーマに登場。賀来氏は、新型コロナウイルスに対する「総合的・効果的に対応していくためには、今大会のテーマでもある結(ゆい) ネットワークの構築が重要なキーワードとの考えを示している。

特別講演は、田上祐輔氏(医療法人社団やまと理事長)が「おかえりモネから学ぶこれからの地域医療」平塚真弘氏(東北大学大学院薬学研究所准教授/東北大学東北メデイカル・メガバンク機構)が「一般住民バイオバンクを活用したファーマコゲノミクス研究と個別化薬物療法への応用」、井上彰氏(東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野教授)が「診断時からの緩和ケア」における薬剤師の役割を講演する。

分科会では、医療DX、AMR、災害医療、新型コロナウイルス対応、セルフメディケーションなど薬剤師にとって重要なテーマを取り扱い、議論が行われる。

また、2日目の午前には日薬の山本信夫会長による会長講演を企画しているほか、薬学生シンポジウム、スイーツセミナーなども行われる予定だ。懇親会は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

参加者は現地参加が5500人、ウェブ参加が2500人の合計8000人を計画している。新型コロナウイルス感染症対策として、現地参加者にマスク着用を求め、施設各所に消毒用アルコールを設置する。

【主催】日本薬剤師会、宮城県薬剤師会
 【会期】9日(日)、10日(月・祝)
 【大会ホームページ】<https://site2.convention.co.jp/jpa55/index.html>

第II集

第55回 日本薬剤師会 学術大会

主な内容	
山本日薬会長に聞く	4
山田大会運営委員長に聞く	5
日薬賞受賞者の横顔	6~7
分科会の見どころ・聞きどころ	8~10、15~17
〈グラビア〉	
東日本大震災から11年 宮城県薬の取り組み	11~14
話題の調剤支援システム	18~22

患者さんとの絆をつなぐ

重篤な疾患と共に生きる患者さんとそのご家族が、笑顔を取り戻し、人生の喜びを感じていただくことがユーシービージャパンの願いです。

私たちは患者さんを全ての中心に据えて、ニューロロジーと免疫・炎症領域に力を注いでいます。患者さんに鼓舞されて、最先端の科学、革新的な医薬品、実用的なソリューションをさらに一歩進めます。



Inspired by patients. Driven by science.

ユーシービージャパン株式会社

JP-N-OT-2200015

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp <http://www.yakuji.co.jp/>

日本薬剤師会 山本 信夫会長に聞く

次世代担う後継者育成進める 5期目となる新執行部スタート



日本薬剤師会は6月、山本信夫会長体制5期目となる執行部をスタートさせた。この2年間で次世代を担う後継者の育成に力を入れ、5月に公表した政策提言の実現に向けた取り組みを進めていく方針だ。薬剤師・薬局をめぐる環境が変化している中、山本氏は「業務拡大のみならず、原点回帰も必要」と訴える。山本氏に今後の事業運営の方向性などを聞いた。

——新執行部をスタートさせた。

会長として2年間の最重要課題は後継者を育てていくこと。30人の理事がいて、新たに7人が加わったが、皆さん地域の中で頑張ってきている人たちだ。新たな発想やアイデアを取り入れていきながら、日業の事業を上げていく一方で、活動の中心が薄まらないよう事業運営に当たっては基本的に考え方については濃縮させる必要がある。各理事にはそれを実行していただくことが重要だ。そのためにも人材養成を進めていきたい。

2021年と22年に政策提言を出させてもらった。各年度の事業計画の中に様々な項目を盛り込んでいるが、長期視点で大きなストラテジーとして示したことになる。

——この2年間で何を成し遂げたか。

振り返ると、16年に患者のための薬局ビジョンが策定され、日業が取り組んできたことが政策的に国の方針として示された。モノから人へ、門前から地域へ、という言い方は日業がこれまで推進してきた方向性であり、これまで薬局や薬剤師が直面してきた課題が様々な形で指摘されるようになり、20年の医薬品医療機器等法改正につながった。

改正薬機法で記載された内容が22年診療報酬改定にも色濃く反映している。24年には診療報酬・介護報酬などのトリプル改定、25年には地域包括ケアシステムと医療計画の見直し、26年の診療報酬改定が控えている。長期的には25年を境に30年、40年と人生100

0年時代においても薬剤師が活躍できるよう土台作りを進めたいという思いがある。

この2年間で種を仕込んで、次世代を担う執行部の方々が基本政策を将来にわたって使えるようにしたいという思いがある。副会長が大きな流れの中で薬剤師が今

——この2年間で何を成し遂げたか。

ここにいるのかを考え、常務理事や理事がそれを広げていく必要がある。

——地域医薬品提供計画について。

薬局薬剤師が過剰になるとの指摘がある中、薬剤師不足が何に起因しているのかを考えた時に、本間に薬剤師が足りていないのか、偏在しているのかの二つのパターンが挙げられるが、私は後者の理由で薬剤師不足が起こっていると考えている。

薬局の偏在と医療提供施設の分布に誤差があるのではないかと。医療計画が策定されたのは戦後間もない時期で、その頃は医療の定着が大きな目的

——学術大会は2年ぶりのリアル開催になる。

ウェブとのハイブリッド開催なので、健康上の理由で参加できない人たちがスケジュールの関係で参加できない人にとっては良い仕組みだ。

宮城県は東日本大震災が起った11年の開催地であり、10年経って復興したかを参加者一人ひとりが感じ取ることの意味

であり、治療手段として医薬品を使うことが主流ではなかった。でも現在は、医薬品で病気を治すことができるようになった。C型肝炎治療薬「ハーボニー」を例に挙げると、C型肝炎ウイルスを消失させ、肝硬変や肝臓癌への進行を食い止めることができるようになるなど、外科的な手術と同じく医療技術と考えると、新しい薬が登場した。そうすると、医療計画に医薬品を提供する体制を整備する必要がある。これも革新的な医薬品を提供することが必要だが、都市部では薬局が乱立している地域がある一方で、地方では医療機関がないから医薬品を提供する薬局がないのが現状だ。

——3回現地に派遣することなどが考えられる。地理的な環境に合わせて薬局や医薬品供給拠点をどう整備するかであり、そのための検討や努力はせずモバイルファーマシーを活用しようとするのであれば、それは少し順番が違うのではないかと。

——医療用一般用兼用医薬品について。

以前からOTC類似医薬品の保険外しが議論となっている。処方箋で取り扱うことも可能で、OTC医薬品として販売できる医薬品があってもいいのではないかと。この提言を出させていた。概念としては、水陸両用だ。医療用一般用兼用というカテゴリにして医療でも使えるけど、OTC医薬品にもなる。保険の給付体系を変えないといけないので実現は容易ではないが、一つの方向性になる。

——リフィル処方箋の普及に向けて。

1枚の処方箋を丁寧に取り扱い、調剤後に体調や副作用、服薬管理などのフォローアップを行うことはこれまでも取り組んでおり、リフィルだからといって薬剤師が新たに取組まないといけないということではない。

薬剤師の原点回帰が必要

——薬剤師の原点回帰が必要

20年の薬機法改正により、これまで薬局・薬剤師が抱えていた課題が整理された。今後薬剤師は

何をやるのかという問いに対しては、「原点回帰が必要」と申し上げたい。それは薬剤師業務の拡大ということではなく、調剤

だけではなく、患者や地域住民に必要な医薬品を扱い、情報提供や服用している薬の相談にも応えられるよう薬剤師がしっかりと対応していくことに他ならない。つまり、自分たちの仕事をしっかりとやるということだ。

東日本大震災や新型コロナウイルス感染症でも助け合って仕事をしてきた。困難に直面した方を

どうやってサポートできるか考えてきた。薬剤師として医療に踏み込み、新たな仕事を広げていくという方向性はあるが、その前に薬剤師としてしっかりと取り組まなければならない仕事があるはず。それが守りきれなかった後の「業務の拡大」議論だろう。まずは、国民・患者のためにどんな仕事ができるのか、いま一度落ちて考えてみることも必要ではないか。

——薬剤師としてやるべきことをしっかりと行い、それが評価されれば次の世代に結びつき、新しい業務拡大につながる。他の医療専門職が実施している業務について「われわれにもできる」と言っている。職能を広げる動きは、薬剤師会としては好ましくないと思っている。

その一方で、今の薬剤師業務を浸食するような動きには抵抗していく。薬剤師業務としての原点を変えず、もう一度原点を見つめ直していった。



患者さんの暮らしに 寄り添い続けて20年

1日2回服用タイプの「クラシエ医療用漢方製剤 KB2 スティック」がおかげさまで20周年を迎えました。患者さん一人一人の、より自分らしく生き生きとした暮らしのために、KB2 スティックは、これからも貢献してまいります。

医療用医薬品ウェブサイト「漢・方・優・美」 www.kampoyubi.jp
各漢方薬に関する製品情報や臨床報告など、詳しい情報はこちらのサイトからご覧いただけます。

夢中になれる明日
Kracie

クラシエ 薬品株式会社 〒108-8080 東京都港区海岸3-20-20 www.kracie.co.jp
[資料請求先] 医薬学術部 Tel 03(5446)3352 Fax 03(5446)3371



人との結びつき築く大会に

大会運営委員長 山田卓郎氏(宮城県薬剤師会会長)に聞く

第55回日本薬剤師会学術大会が「結(ゆい)——地域と共に未来へ」をテーマに9～10日の両日、仙台市の仙台国際センターで開催される。2年ぶりに現地開催とウェブ開催のハイブリッド形式で実施される。大会運営委員長の山田卓郎氏(宮城県薬剤師会会長)は、「災害が人と人を結びつけてくれた。コロナでも地域住民との距離感が縮まっている。2年ぶりのリアル開催となる学術大会が全国の薬剤師にとって貴重な交流の場になるようにしたい」と語る。山田氏にテーマに込めた思いや分科会の企画意図について聞いた。

大震災からの復興が主軸 地域に根付いた活動必須

——開催までのよう
な準備をしてきたか。
昨年8月に学術大会の
実行委員会を立ち上げ
た。東日本大震災が発
生した2011年の日薬大
会開催地であったため
の際に準備していた内
容に沿った形でチーム
を構成し、準備を進め
た。テーマ「結」に込
めた思いは。
東日本大震災の経験
から災害が人と人を
結びつけてくれたとい
う意味で、「結——地
域と共に未来へ」を
テーマとした。東
日本大震災が起る前
は、災害時の医療救
護活動に薬剤師がチ
ームとして入ってい
なかつたが、震災で
薬剤師が活躍でき
たことで災害医療チ
ームのメンバーとし
て加わることが見
直された。震災によ
って患者に使われ
た医薬品データが全
て消失し、避難所
の医薬品供給も混
乱していた。後発
品の普及も遅
うと始まった頃、一
般名ではない後発
品は判別がつかず、
同じ銘柄の後発品
がない場合、別
銘柄の後発品に
品にするのか、先
発品に変更すべ
いのか分からず
医師も悩んでいた。
後発品を活用
できる薬剤師
が災害医療の
メンパーに加わ
ったことで、負
担が軽減され
たとの感謝の
声を聞いた。



山田卓郎氏(宮城県薬剤師会会長)

ただいた。
19年の東日本台
風による豪雨で丸
森地区が大きな
被害を受けたが、
既に他団体と顔
が見える関係が
構築されており
、医薬品の配置
や供給について
は薬剤師会に任
せてもらえよう
になった。現在
では災害以外で
も連携した活動
が行えるよう
になった。
地域医療で行政
や他団体との関
係性は「朝一夕
に作り上げられ
るものではない
」と思っている。
災害を経験して
いない都道府
県からは「心な
く」震災で被害
を受けた地域に
関する支援が
進められ、地域
医療で関係する
人たちが口を
揃えていくこと
の重要性を申
し上げた。
震災では県外
からの支援薬剤
師に支えられた
が、県外から来
た薬剤師は地
域によっては
派遣が難しい
場合もある。
薬剤師は地域
住民の顔も分
かっているし、
地域に根付い
て活動している
薬剤師が必要
不可欠とする。
——コロナで
人と人の結び
つきの重要性
が認識されて
いる。2年ぶ
りのリアル開
催の意義は。
2年ぶりに現
地で開催でき
るのは喜ばし
いことだ。感
染対策を取
れば心配なく
開催できる

——コロナ禍を経て
薬剤師の重要性が高ま
っている可能性もあり、
ひとつのテーマに集約
させていくことが望ま
しいと考えた。
分科会のテーマにつ
いては、16年に策定
された「患者のための
薬局ビジョン」を踏
まえ、地域の中で
求められている薬
局薬剤師の将来像
を示す必要がある
と考えた。県薬
理事に薬剤師が
興味を持つてい
ることや課題な
どテーマを募集
した後、分科会
チームでテーマ
を決定した。
選ばれたテーマ
を見ると、医療
DXや地域包括
ケア対応などを
意識した分科
会のテーマに
なっていると思
う。私が座長を
務める分科会15
「災害時の薬剤
師の役割」は自
ら志願し、通常
は2時間の枠を
3時間に延長し
た。そのほか、
新型コロナウイルス
に関連した話題
や認定薬局制
度、後発品の
供給問題、AMR
対応なども取
り扱っている。
——「コロナ禍
を経て薬剤師
の重要性が高
まっている。制
度がスタート
したばかりな
ので今後の検
討課題になる
のではない
か。分科会
でも課題や
今後の展望
などを聞く
ことができる
のではない
か。」
医療DXにつ
いては、医療
DXも重要な
テーマとなる
。宮城県では
震災後にみや
ぎ医療福祉情
報ネットワーク
という独自
システムを作
り、クラウド
で情報を共有
し、災害時に
患者情報を使
って診療でき
る仕組みを構
築している。
今後はICTに
よる情報共有
システムを有
効に活用して
いかなければ
ならない。来
年1月に運用
が始まる電子
処方箋システ
ムもオンライン
資格認定シス
テムの基盤が
ないとサービ
スを提供でき
ない。医療分
野でICTを活
用することの
意義や情報提
供を行い、普
及を図ってい
く必要がある
。

交流機会の意義大きく 目標来場人数は8000人

——学術大会の意義は。
薬剤師の自己研
鑽は非常に重要
であり、若い薬
剤師には貴重な
発表の場になる
。個人的には自
己研鑽よりも様
々な人たちの
交流機会とし
て意義が大きい
と感じている。
学術大会では
同世代の薬剤
師がどんな取
組みをしている
のかも見てい
たい。積極的に
交流する機会
が減っている
のが気になって
いる。調剤に
必要な知識
だけを詰め込
むのではなく
、患者さん
との接し方も
含めたコミュニ
ケーション能
力を身に付け
ておく必要が
ある。
学術大会では
同世代の薬剤
師がどんな取
組みをしている
のかも見てい
たい。積極的に
交流する機会
が減っている
のが気になって
いる。調剤に
必要な知識
だけを詰め込
むのではなく
、患者さん
との接し方も
含めたコミュニ
ケーション能
力を身に付け
ておく必要が
ある。
学術大会では
同世代の薬剤
師がどんな取
組みをしている
のかも見てい
たい。積極的に
交流する機会
が減っている
のが気になって
いる。調剤に
必要な知識
だけを詰め込
むのではなく
、患者さん
との接し方も
含めたコミュニ
ケーション能
力を身に付け
ておく必要が
ある。

——「コロナ禍
を経て薬剤師
の重要性が高
まっている。制
度がスタート
したばかりな
ので今後の検
討課題になる
のではない
か。分科会
でも課題や
今後の展望
などを聞く
ことができる
のではない
か。」
医療DXにつ
いては、医療
DXも重要な
テーマとなる
。宮城県では
震災後にみや
ぎ医療福祉情
報ネットワーク
という独自
システムを作
り、クラウド
で情報を共有
し、災害時に
患者情報を使
って診療でき
る仕組みを構
築している。
今後はICTに
よる情報共有
システムを有
効に活用して
いかなければ
ならない。来
年1月に運用
が始まる電子
処方箋システ
ムもオンライン
資格認定シス
テムの基盤が
ないとサービ
スを提供でき
ない。医療分
野でICTを活
用することの
意義や情報提
供を行い、普
及を図ってい
く必要がある
。

G・U・M 史上初! 新・殺菌アプローチ

歯周病菌増殖の黒幕まで殺菌
+ 抗炎症で歯周病予防

歯周病菌とたたかう

G・U・M PLUS+

【黒幕となる菌(Fn.菌)】

サンスターアメリカ研究員
Jeremy Elisa

NEW 殺菌力 NEW

薬用G・U・MデンタルペーストHT 薬用ハミガキ 医薬部外品
薬用G・U・MデンタルリンスQA 液体ハミガキ 医薬部外品
効能:歯周病(歯肉炎・歯周炎)予防
※高濃度フッ素配合のため、6歳未満のご使用はお控えください

※イメージ

石野 良和先生の横顔

石野良和先生が、この度2022年度日本薬剤師会賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。3期5年3カ月(社団法人から一般社団法人移行のため)のリーダーとして会員2900人以上の千葉県薬剤師会、会長として活躍していただきました。石野先生が会長時代力を入れていたのは、千葉県のみなならず近隣の薬剤師会等とも密に連絡が取れるような薬事情報センターの整備拡充を行い、会員に対し、いち早い情報提供が行われるよう体制を築き上げました。

おかげで千葉県薬事情報センターは他の県薬剤師会に誇れる活動をする事が今でもできています。また、13年に災害対策委員会を設置し、11年に発生した東日本大震災を機に、会の防災対策を見直すこととなり、大規模災害発生時初動マニュアルの作成、連絡網の構築、また、千葉県薬剤師会独自の災害時支援薬剤師を養成するための研修会を開催するなど、災害時におけるいち早い体制整備を行いました。

千葉県と協力し、委託事業等にも積極的に取り組むなど、先生はお若いのですが、ますますのご活躍を祈念いたします。おめでとうございます。

(千葉県薬剤師会会長・杉浦邦夫)



プロフィール

1979年東京薬科大学薬学部卒業。エスエス製薬を経て、石野薬局経営。現学校薬剤師。現千葉県薬剤師会監事。元千葉県薬剤師会会長、元日本薬剤師会理事。元日本薬剤師会代議員。千葉県医療審議会委員、千葉県薬事審議会委員、千葉県公害審査会調停委員などを歴任。厚生労働大臣表彰、千葉県知事表彰などを受賞。

22年度日本薬剤師会賞

受賞者の横顔

横顔

明石 文吾先生の横顔

明石文吾先生の2022年度日本薬剤師会賞受賞を心からお祝い申し上げます。と共に、先生の御功績やお人柄についてご紹介いたします。

明石先生は、02年から静岡県薬剤師会理事および副会長を歴任された後、13年から17年まで会長に就任され、執行部の長として自ら先頭に立って薬学薬業界の進歩と発展および公衆衛生の普及向上を目指して、地域医療および薬剤師の職能向上等に献身的に努めてきました。

特に、医薬分業の推進機運が一層高まる中、日本薬剤師会制定の「都道府県薬剤師会認定基準薬局」制度を推進されるなど、処方箋を推進されるなど、処方箋



プロフィール

1976年北里大学薬学部卒業。あかし薬局経営。学校薬剤師。元三島市薬剤師会会長、元静岡県薬剤師会会長、元日本薬剤師会理事。元日本薬剤師会代議員。元日本薬剤師会総会議事運営委員会、会館建設特別委員会、職能対策委員会医薬分業検討会委員。静岡県薬事振興会会長、静岡県病院薬剤師会顧問などを歴任。現在、静岡県薬剤師連盟会長、静岡県立大学大学院臨床教授。厚生労働大臣表彰、文部科学大臣表彰、静岡県知事表彰などを受賞。

して活動や運営に大いに貢献されました。

明石先生のお人柄は、まず、謙虚であり、人の話をよく聞いて細やかな心配りをされる方です。また、無類のビール好きで酒席ではいつも明るく豪快で、誰からも好まれるお人柄です。

先生には、現在も当会の顧問として後進の指導・育成にご尽力いただいておりますと共に、県薬剤師連盟の会長として政治活動にもご活躍いただいております。誠にありがとうございます。感謝申し上げます。今後ますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

(静岡県薬剤師会会長・石川幸伸)

安西 英明先生の横顔

この度、安西英明先生が栄えある日本薬剤師会賞を受賞されました。心よりお祝い申し上げます。

安西先生は1993年に香川県薬剤師会理事に就任された後、94年に常務理事、2002年には副会長を歴任後、15年から6年間会長として長年にわたり薬剤師会の運営、発展に大いに貢献されました。

特に高松赤十字病院薬剤師会、香川県薬剤師会理事に就任された後、94年に常務理事、2002年には副会長を歴任後、15年から6年間会長として長年にわたり薬剤師会の運営、発展に大いに貢献



プロフィール

1975年昭和薬科大学卒業。病院勤務を経て安西番町薬局を経営。NPO法人へき地とあゆむ薬剤師理事長。元日赤薬剤師会会長。元香川県病院薬剤師会会長。元香川県薬剤師会会長。元日本薬剤師会代議員。元日本薬剤師会理事。香川県医療審議会、香川県薬事審議会などの委員を歴任。香川県知事表彰、厚生労働大臣表彰などを受賞。2022年旭日双光章受章。

薬局開設事業を実施するに当たり、「特定非営利活動法人へき地とあゆむ薬剤師」を設立し、理事長に就任されました。当該NPO法人は12年にへき地診療所である多和診療所の処方箋を応需するほか、地域住民の生活指導を行うなど地域医療に多大な貢献をしており、一方薬学生に対し、多和薬局を活用してへき地医療と薬剤師の役割についての研修の機会を提供しています。

これまでのご尽力に対して改めてお礼を申し上げますと共に、先生の今後ますますのご健勝とご活躍を祈念申し上げます。

(香川県薬剤師会会長・久間一徳)

感染リスクから患者、医療従事者、そしてその家族を守りたい

さまざまな環境表面に

血液汚染のあるところにも

厚みがあり液含みが良い

開封後1ヵ月安定

欧州標準規格 EN16615をクリア

mikrozid® universal wipes premium

本品は医薬品及び医薬部外品ではありません。

ご使用場所例

- ディスプレイやキーボード
- スマホやタブレットのタッチパネル
- 患者ベッド周り
- 手すりやドアノブなどの高頻度接触面
- 車いすや待合いすなどの合皮素材
- 診察台とその周り
- 手術台とその周り、无影灯
- プローブなどのノンクリティカル医療機器の表面

製品情報

●仕様
品名: マイクロジッド®プレミアムワイプ
用途: 環境表面の洗浄および除菌
成分: エタノール12.6w/w%、イソプロパノール17.4w/w%、界面活性剤、有機酸ほか

●サイズ: 200×200(mm)
枚数: 120枚 使用期限: 24ヵ月

●使用方法
●ワイプを取り出し、環境表面を拭いてください。●人体・食器・食品の清拭には使用しないでください。●表面が十分濡れていることを確認し、自然に乾燥させてください。二度拭きは不要です。

●使用範囲
●テーブル、ベッド欄、ドアノブ、合成皮革ソファ、手すりなどの高頻度接触面●非侵襲性医療機器の表面●モニター、タブレット、スマートフォン、キーボード●車椅子、血圧計、採血台、点滴台●手術台、処置台、无影灯

●応急処置
●目に入らないように注意してください。●使用後はフタをしっかり閉めてください。●ワイプをトイレに流さないでください。●開封後は1ヵ月以内に使用してください。●熱、直射日光、霜を避けてください。●容器は入れ替えず、室温で保存してください。●幼児の手の届かないところに保管してください。●熱、火花、裸火、高温のもののような着火源から遠ざけてください。●機器などに使用する場合は、目立たない部分で試してからお使いください。●PC等、精密機器に使用する際は、その機器の取扱説明書等で清拭方法をご確認ください。●広範囲又は長時間使用する場合には、蒸気の吸入に注意してください。

【発売元】 シュルケ・ジャパン合同会社 【販売元】 丸石製薬株式会社

【資料請求先】 丸石製薬株式会社 学術情報部 大阪市鶴見区今津中2-4-2 TEL:0120-014-561 (2022年2月)

竹上茂先生の横顔

この度、竹上茂先生が2022年度日本薬剤師会賞を受賞されましたこと、衷心よりお祝い申し上げます。

竹上先生は、当会の理事を4年、副会長を8年務められた後、12年より会長に就任。その後、会長として8年の長きにわたり、当会はもとより国民の医療、福祉、健康づくりに貢献し、

薬剤師職能の向上に尽力し、

「地域包括ケアシステム」の構築やその推進をするためには、

また地域関係者との連携拠点として、

も療養対応などで衛生用品が必要なのはいつでもどこでも対応できるように薬局での備蓄を図り、

また、健康サポート薬局を推進するためには、

また、健康サポート薬局を推進するためには、セルフレディケーションの推進、



プロフィール

1983年近畿大学薬学部卒業。まほろば薬局本店経営。学校薬剤師。元奈良県薬剤師会会長。元日本薬剤師会代議員。元日本薬剤師会総会議事運営委員会委員。奈良県学校保健会副会長、奈良県医療審議会委員、奈良県薬事審議会委員、社会保険診療報酬支払基金奈良支部参与、大阪大谷大学薬学部臨床教授などを歴任。現在、奈良県薬物乱用防止指導員。厚生労働大臣表彰、奈良県知事表彰などを受賞。

亀谷浩昌先生の横顔

この度、亀谷浩昌先生が2022年度日本薬剤師会賞を受賞されましたこと、衷心よりお祝い申し上げます。

亀谷先生は、琉球大学病院に30有余年にわたり在職され、その多くを沖縄県病院薬剤師会事務局の統括に費やされました。その傍ら、

属して、両会のかげ橋となり組織の強化に尽力されました。定年後は、

そして、15年にこれまでの実績が認められ、多くの支持を受け会長に就任し、



プロフィール

1973年金沢大学薬学部卒業。元国立大学法人琉球大学医学部附属病院副薬劑部長。学校薬剤師。元那覇地区薬剤師会会長。元沖縄県薬剤師会会長。元日本薬剤師会代議員。沖縄県学校保健会理事、沖縄県医療審議会委員、沖縄県振興審議会委員、社会保険診療報酬支払基金沖縄支部参与、沖縄県病院薬剤師会理事などを歴任。厚生労働大臣表彰、沖縄県知事表彰などを受賞。

要であるとして、その事業に力を入れてこられました。研修に関しては、特に指導力を発揮され、

また、健康サポート薬局を推進するためには、

先生には、これからも当会の顧問として、引き続きご指導をいただいております。

川恵司(奈良県薬剤師会会長・吉)

畑澤博巳先生の横顔

畑澤博巳先生が、2022年度日本薬剤師会賞を受賞されましたこと、衷心よりお祝い申し上げます。

畑澤先生は、地元岩手に戻られてからすぐに地域医療へ取り組み、早くから盛岡薬剤師会理事、岩手県薬剤師会理事・常任理事・副会長を務められ、

センターの新築移転および財団法人化等の重点事業について、自ら陣頭指揮を執り、進めてこられました。

また、岩手県薬剤師会は、本年、創立110周年の節目の年となります。これからは、

会長職を3期6年務め上げられました先生は、

先生には、会長を退任された現在も当会の顧問として後輩の指導・育成にお力をいただいております。



プロフィール

1974年東京薬科大学薬学部卒業。三共札幌支店勤務、薬局勤務を経て、第一薬局経営。元岩手県薬剤師会副会長、元岩手県学校薬剤師会副会長。現在は岩手県薬剤師会会長、日本薬剤師会代議員、日本薬剤師会組織委員会委員、日本薬剤師会連盟常任総務を務める。岩手県知事表彰、厚生労働大臣表彰、文部科学大臣表彰などを受賞。

そしてその活動は、日薬や都道府県薬剤師会との調

整のみならず、何度も被災地に足を運び、時には一緒に活動され、

オンラインシンポジウム

「薬剤師に求められるプロフェッショナリズムを再考する」

～医学教育の変遷から学ぶ、これからの社会に求められる薬剤師の育成～

薬学教育モデル・コアカリキュラムは、令和4年度に改訂され、令和6年度の1年生から導入されます。今回の改訂では、同じ医療人として、医学・歯学・薬学のコアカリが歩みを揃えることで、「未来の社会や地域を見据え、多様な場や人をつなぎ活躍できる医療人の養成」というキャッチフレーズが発表されています。このような動きを踏まえて、これからの薬学教育・薬剤師業務の在り方を考えるシンポジウムを開催します。

開催日時 2022年10月30日(日) 14:00～16:30

対象者 大学教職員、薬剤師、薬学生

詳しくはこちらへ▲

第一部 - 基調講演 / 第二部 - パネリスト講演・パネルディスカッション

錦織 宏氏 (名古屋大学大学院医学系研究科 総合医学教育センター 教授)
前野 哲博氏 (筑波大学 教授 / 筑波大学付属病院 副病院長・総合診療科長)

亀井 美和子氏 (帝京平成大学薬学部 学部長)
永田 泰造氏 (公益社団法人 東京都薬剤師会 会長)

主催：一般社団法人 薬学ゼミナール生涯学習センター
共催：公益社団法人 東京都薬剤師会

認定薬局制度の現状と展望

座長
日本薬剤師会理事
山田武志
宮城県薬剤師会常任理事
金田早苗

2019年に医薬品医療機器等法が改正され、20年8月からは薬剤師・薬局を取り巻く状況が変化中、患者が自身に適した薬局を選択できるよう、薬局の認定制度として「地域連携薬局」「専門医療機関連携薬局」が新設され、薬局の役割や機能強化が図られることとなった。その中で地域との関わりや多職種連携など、制度に沿った取り組みが求められている。

本分科会では、超高齢社会などを背景とした地域包括ケアを念頭に置いた地域医療体制の中、改正の目指す姿や先進的実践例などを紹介しながら、今後の薬剤師の役割について議論する。

基調講演では「認定薬局制度の現状及び今後の展望」と題して、厚生労働省医薬・生活衛生局総務課の太田美紀薬事企画官に認定薬局制度施行から1年が経過した現在、5月末時点で地域連携薬局が2696件、高度医療機関連携薬局が110件となる中、これらの認定薬局が地域においてどのような機能、

役割を果たしているか、コロナ禍における役割等も含めて解説し、今後の展望についてご講演いただく。

次に「地域連携薬局の実践活動報告」と題して、ほし薬局星利佳氏から新型コロナウイルスの感染が拡大し、本来行われるべきことが中止や延期となる中で、ウェブを利用した多職種連携や新型コロナで自宅療養中の患者への薬剤配送業務や無料検査などの新型コロナ対応を通じて、地域包括ケアシステムの一翼を担う薬局となるために地域連携薬局として、その役割を模索しながら取り組みを行ってきた活動についてご講演いただく。

続いて「専門医療機関連携薬局としての現状報告と今後への期待」と題して、まつもと薬局大野伴和氏から専門医療機関連携薬局として、癌等の専門的な薬学管理に対応すると共に、地域薬局における研修施設の役割として、連携医療機関での研修内容をもとに、地域の保険薬局を対象として行っている勉強会への取り組みを通じて、これからの薬剤師に必要な地域医療教育についてご講演いただき、最後に総合討論として、認定薬局制度の現状と展望を通して、今後の薬剤師の役割について議論を行う。(山田武志)

がん化学療法における薬剤師の役割と連携

座長
日本薬剤師会理事
舟越亮寛
宮城県薬剤師会常任理事
瀬戸敏之

近年、複数の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬が上市され、外来治療を通院継続しながら職場復帰や日常生活を送れる患者が増加している。一方で、前述した抗癌剤は副作用の発症時期が異なるなど、患者の治療中の不安を解消するための治療管理が重要である。

そのような社会的背景から、2020年度診療報酬改定により連携充実体制加算、調剤報酬改定により特定薬剤管理指導加算2が新設された。さらに20年9月施行の薬剤師法改正による継続的服薬指導、21年8月施行の薬機法改正による専門医療機関連携薬局の認定制度が始まり1年が経過したところである。合わせて副作用の発症時間も様々であるため時間外の体制も重要である背景から、22年度診療報酬改定では外来化学療法加算が見直され、外来腫瘍化学療法診療料が新設された。

急速に体制整備され、各地域において薬業連携が充実しつつあるが、専門医療機関連携薬局についてはこれから認定取得を目指す保険薬局が多く、先行事例の共有が求められているところ

である。そのため先行事例の紹介として、まずは「薬局・薬剤師に期待すること」と題して、前国立がん研究センター理事長特任補佐の中山智紀氏から調剤報酬の動向や実績等のデータを交えて、効果的な薬業連携の実例を紹介いただく。

次いで、専門医療機関の立場から「乳癌治療における『医-薬(病院)-薬(薬局)』連携の構築—地域で癌治療を支える取り組み」として東北大学病院の原田成美先生、「医療機関と薬局とのよりよい連携のために病院薬剤師として出来ること」として国立がん研究センターの松井礼子先生から保険薬局との連携についてテレフォニフォロからトレーシングレポートの実例と検証評価を紹介いただく。

最後に、専門医療機関連携薬局の立場から、ひかり薬局大学病院前調剤センターの松浦綾子先生から地域での癌治療を支える取り組みや情報連携にみよぎ医療福祉情報連携ネットワークを活用した取り組みについて紹介いただく。

このように体制が整備充実された中で癌化学療法に関わる各立場から、保険薬局薬剤師への期待や業務のあり方について情報を共有し、シームレスな癌化学療法患者のフォローアップ体制の構築について議論する。(舟越亮寛)

分科会の見どころ・聞きどころ

関連記事
8~10、15~17面

薬局におけるフレイル・サルコペニア対策への貢献

座長
宮城県薬剤師会常任理事
小坂浩之
松島病院薬剤部長
宮城昭一

高齢化社会の問題の中で健康寿命が重要な課題として明るみになっているフレイルとサルコペニアであるが、薬局、薬剤師による関わりやあり方について、学びおよび行動起点としたい分科会である。

まずは、基調講演として宮城県薬剤師会顧問で前会長の佐々木孝雄先生から、日常汎用される多くの医薬品がフレイル・サルコペニアの促進因子として作用する可能性についてお話していただく。さらに、フレイルの評価指標などに基づいて患者観察を行い、その体調変化と服用薬剤との関連性を考察することで、保険薬局の日常業務の中でも可能なフレイル・サルコペニアの進展抑制についてもお話しいただく。

また、フレイル、サルコペニア対策には、様々な起因理由があることから、多職種連携がより重要な要素とな

る。そこで栄養の重要性、栄養管理が適切な状態にないと改善は困難となることから、薬局における栄養管理についての関わりについて管理栄養士の塩野崎淳子先生にご発表いただく。

栄養と合わせて筋力の維持改善においても運動療法は言うまでもなく大切な要素となる。薬剤師が様々な患者対応の中でスクリーニングによる早期発見と対策への役割を担うことの可能性を、理学療法士の取り組みと合わせて山田実先生からご発表いただく。

その後に薬剤師の実際の取り組みとして、仙台市薬剤師会のワーキンググループによる発表として、参加薬剤師の知識と意識の向上、参加薬局の具体的対応、地域への関わり事例等の内容について、ワーキンググループを代表して関口総司郎先生にご発表いただく。

分科会全体として、既に対応を求められている保険薬剤師の服用中の患者へのフォローという視点、薬剤師だからこそ可能な今後の総合的アセスメントのあり方についても、触れていくことができる内容となるので、ぜひご来場いただければと思います。(小坂浩之)

地域フォーミュラリの推進に向けて

座長
日本薬剤師会副会長
安部好弘
東北医科薬科大学名誉教授・客員教授
渡辺善照

フォーミュラリは「患者に対して有効性・安全性・経済性などの観点から選択されるべき医薬品および使用指針」と定義されているが、院内フォーミュラリと地域フォーミュラリでは、その特性やあり方は大きく異なる。

フォーミュラリの活用は、経済財政と改革の基本方針2021において、後発医薬品の使用促進との関連として明記されている。また、欧米諸国で実施されているフォーミュラリの仕組みは、推奨医薬品以外の処方に極めて抑制的な制限をかけており、わが国でも同様の結果につながるという懸念が大きな障害となっているのではないだろうか。地域フォーミュラリ推進に向けては、わが国の医療・保険等の制度を踏

まえた上で、標準的な薬物療法を実施するためのツールとして明確に位置づけることが必要であろう。

本分科会では、厚生労働省医薬安全対策課長の中井清人氏に医薬品の適正使用に薬剤師がいかに関わるべきか基調講演していただく。薬剤師に対する叱咤激励があるのではないかと期待をしている。続く講演では、日本フォーミュラリ学会副理事長の近藤太郎氏から、医師の視点から地域フォーミュラのメリット・デメリットについて、大阪府八尾市薬剤師会会長の中野道雄氏から八尾市で実践された地域フォーミュラの経緯や成果等を踏まえた考察をお示しいただく。

全国には1700余りの市区町村、700余りの地域薬剤師会が存在する。地域フォーミュラリが進展するためには、先進事例や学会等の成果を活用し、効率的な導入と継続的な運用を行うための基盤の標準化なども必要となろう。本分科会がその一助となるよう議論を深めたい。(安部好弘)

JAPIC 医療用医薬品集 2023

2022年9月発売



- ◇ 国内流通全医療用医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします。
- ◇ 約50年の編集実績による信頼と使いやすさ。
- ◇ 2022年6月後発品まで掲載。
- ◇ 一般名の五十音順で項目を配置し、先発品と後発品の効能・用法の違いを一目で把握できます。医薬品の選択にご活用下さい。
- ◇ 「薬剤識別コード一覧」を掲載。
- ◇ 更新情報メールの無料提供(要登録)。
- ◇ CD-ROM付。
- ◇ 分冊にて制作し、本文が見やすく・調べやすくなりました(ケース入り)。

ISBN: 978-4-86515-199-2 B5判 約4,300頁(本文) 価格 14,300円(税込)

編集・発行 一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC
FAX 0120-181-461 TEL 0120-181-276

JAPIC 一般用医薬品集 2023 (要指導医薬品を含む)

2022年9月発売



- ◇ 医薬品医療機器総合機構(PMDA)・日本製薬団体連合会(日薬連)と連携し、最新の一般用医薬品添付文書を網羅的に収集。
- ◇ 付録として、
 - ・国内副作用報告の状況
 - ・重篤副作用疾患別対応マニュアル(アナフィラキシー他)
 - ・セルフメディケーション税制(医療費控除の特例)対象品目一覧
 - ・リスク区分情報
 - ・ブランド名別成分比較表 等を収録。

ISBN: 978-4-86515-202-9 B5判 約2,000頁 価格 9,900円(税込)

発売 丸善出版株式会社
FAX 03-3512-3270 TEL 03-3512-3256

学校における新興感染症対策と健康教育

座長
日本薬剤師会常務理事
富永孝治
宮城県薬剤師会
星忠寿

2年半以上にも及ぶ新型コロナウイルス感染症の拡大により、多くの学校で教育活動が従来通り実施できないという問題に直面してきた。さらにクラスター発生による休校や学級閉鎖などで教育の機会が失われている上、感染を恐れるあまり登校を長期にわたって控えたり、欠席したりする児童生徒らも存在するという。一方、児童生徒らを取り巻く問題は近年ますます多様化、複雑化しており、学校内だけでなく学外の人々が専門性を生かして連携し、協力して支援していくことが求められている。

このような状況下で学校薬剤師は、各学校において新型コロナウイルス感染およびその拡大リスクをできる限り低減させながら教育活動を実施し、児童生徒らの健やかな学びを保障するため、学校が取り組むべき感染防止対策と児童生徒らの将来を左右する健康教育について協議することが求められる。また、新型コロナウイルス感染症

を含む新興感染症について正しい知識と有効な感染対策を児童生徒らに伝え、児童生徒ら自身もコロナをむやみに恐れずに正しい情報を理解した上で感染拡大防止に取り組むことが必要である。

この2年半の間、文部科学省などから学校における新興感染症に関するガイドラインやマニュアルなどが多数作成された。また多くの学校でも感染防止に配慮しながらの教育活動を行い、教育の質を担保するための様々な取り組みが実施された。

本分科会では最初に、行政が目指す新型コロナウイルス感染症に対応した保健教育・保健管理のあり方について発表していただく。続けて、全国の学校で取り組まれた感染対策の好事例や、コロナ禍の中でも行われた薬物乱用防止教育などの健康教育、性教育などについても発表していただき、最後に総合討論を行う。

本分科会での新興感染症対策事例や教育活動などを参考に、学校薬剤師が支援する健康教育について議論を深め、全国の学校における教育の質が向上されることを願う。ひいては子供らが幸せな生活を送る未来への一助となれば幸いである。(富永孝治)

地域におけるセルフメディケーションの推進

座長
日本薬剤師会常務理事
岩月進
宮城県薬剤師会常任理事
佐々木慎一

日本薬剤師会は今年5月、「国民が安心して医療の恩恵を受けられる、超高齢社会の実現のための『日本薬剤師会政策提言2022』一国民皆が良質な薬剤師サービスを受用できる社会を目指して」を発表した。その趣旨はまず、地域において必要な医薬品を適切に過不足なく提供することは薬剤師の基本的な使命であるとした上で、薬剤師・薬局は国民のために持てる全ての知識と経験を駆使して、その使命を果たしていくとしている。

これは、地域における医薬品提供体制を構築する中で、一般用医薬品を含めた医薬品の提供は薬剤師サービスの基本であると位置づけ、さらに発展させた考え方である。そして、薬局と保険者が連携できる仕組み作りなど、セルフケア/セルフメディケーションを推進するため、OTC医薬品の使用

促進に係る数値目標の設定と行うべき対策を整理し、OTC医薬品をより効果的に利用できるようにすべきであるとしている。

さらに、医療用一般用共用医薬品(仮称)類型の創設を提言している。これは、地域住民が医薬品をより活用しやすくするため、医師と薬剤師の両者で患者対応を行うことができるOTC医薬品の新たな類型(医療用一般用共用医薬品(仮称))を創設するものである。

このような提言を、薬局薬剤師は地域においてどのように実現していくのか。本分科会では、厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課長の安藤公一氏から基調講演をいただいた後、宮城県薬剤師会顧問の佐々木孝雄氏、長野県薬剤師会会長の日野寛明氏から地域薬剤師会をそれぞれ代表してご意見をいただき、加えて日本薬剤師会一般用医薬品等委員会担当理事の亀山貴康氏、薬局製剤・漢方検討会の八木多佳子氏からは日薬の考え方などのご発言をいただき、意見や情報の交換と共有が図られる分科会になればと考えている。(岩月進)

後発医薬品の供給問題と安定供給に向けた対策

座長
日本薬剤師会副会長
森昌平
宮城県薬剤師会理事
高橋均

後発品の供給問題として、2019年に海外における原料医薬品の製造トラブルに起因した抗菌薬の供給停止を経験した。また、新型コロナウイルス流行下の現時点においては、一部の解熱鎮痛剤の出荷制限という思いもよらない状況をも経験している。何よりも20年から続く後発品の供給不安定は未だ解決が見えず、その影響は先発品の供給にまで波及している。

本来薬剤師には、医療に必要な医薬品を適切に提供する責務がある。そして、薬局と薬剤師は国の指針のもと、これまで後発品の使用促進に努力してきた。しかし、相次ぐ後発品における流通の障害は、後発品の品質への不安につながり、ひいてはこれまで後発品の普及に努めてきた薬局、薬剤師への信頼を損なう事態となりかねないほどに深刻である。

本分科会は、この問題を厚生労働省、製造企業、医薬品卸業、薬局、各々の立場で検証し、医薬品の安定供給の確

保に向けた議論の機会とすることを目的としている。

まず基調講演として、山本剛厚生労働省医政局医薬産業振興・医療情報企画課ベンチャー等支援戦略室長に、行政の立場から「医薬品の安定供給に向けた行政の取組みについて」として講演いただく。次いで医薬品を供給する立場から、川俣知己日新製薬代表取締役社長/日本ジェネリック製薬協会副会長から「後発医薬品の安定供給の現状と将来展望―製造の立場から」、山口聡一バイタルネット取締役執行役員物流本部長から「後発医薬品の出荷調整に対する医薬品卸の対応」として製造から供給に至る過程における方策について講演いただく。最後に薬剤師を代表する立場として、小田真稔福岡県薬剤師会専務理事に「医薬品提供体制の現状と薬局・薬剤師の役割」として、今薬局で感じている問題についてお話いただく。

私たちが経験している医薬品供給体制の脆弱さは、なぜ生じてしまったのか。また、今後このような事態を生じさせないためには何がなされるべきか。本分科会を通して得られる知見を日々の業務に生かしていければ幸いです。(高橋均)

医療のデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進と今後の薬剤師業務

座長
日本薬剤師会副会長
渡邊大記
宮城県薬剤師会常任理事
斉藤正典

2022年5月17日「医療DX令和ビジョン2030」と題した提言がなされた。日本の医療分野の情報のあり方を根本から解決するための提言であるとされている。データヘルス改革において、まず大規模な健康・医療・介護の分野を有機的に連結したICTインフラとして稼働したのが、オンライン資格確認等システムである。これにより、ほぼ全ての保険薬局がつながり得る基盤が整備されたが、来年4月には本システムの導入を原則として義務化するとされた。そして、この基盤を活用して来年1月から運用が開始される電子処方箋の仕組みも、3月末には当該システムを導入した施設の7割程度とする導入目標が示された。

現在、オンライン資格確認等システムでは患者同意のもとで確認可能な情報として薬剤情報や特定健診情報があるが、今後はこれらの確認できる情報もさらなる拡充が図られていくことが示されている。これらの医療全般にわたる情報に介護も含めて共有・交換し

ていくことを目的として、冒頭で紹介したビジョンにおいては「全国医療情報プラットフォーム」の創設も謳われている。

合わせて同ビジョンでは「電子カルテ情報の標準化等」「診療報酬改定DX」の推進等が盛り込まれている。一方で、個人が所有するスマートフォン等には、マイナンバーカードに紐づいたマイナポータル上で閲覧可能な情報が拡充されると共に、一般的に使用可能な健康アプリやウェアラブルデバイスによる情報が格納されることも増えてくるだろう。また、治療においても、デジタルメディスンが臨床使用されてくるなど、広い視野で医療DXを捉えておく必要がある。

本分科会では加速化している医療DXにおいて、行政の立場から進めようとしているビジョンを紹介していただき、そのような方向性の中で薬剤師・薬局の業務はどのような変化が生じ、またそれにどう対応していくべきなのか、医療DXについての見解を共有し、今後の方向性について理解を深める。

これらを紹介した後は時間の許す限りご参加の先生方と共にディスカッションを行い、それぞれの現場で検討していくための知識を得る機会となることを望んでいる。(渡邊大記)

伝統と経験を未来へ

テイコク漢方



医療用漢方製剤

47品目 薬価基準収載

●包装/42包入・252包入・500g

〈製品情報お問い合わせ先〉

医薬営業部 製品情報室

TEL: 0120-189-567

受付時間/月～金 9:00～17:30 (祝日、当社休日を除く)

☎ KAN-04-1-1711

販売元  帝國製薬株式会社
香川県東かがわ市三本松567番地

製造販売元  帝國漢方製薬株式会社
徳島県阿波市土成町土成字北原80番11

TEL: 06-6482-5115(代)

KOKANDO 解熱鎮痛薬

ロキソプロフェン錠「クニヒロ」

頭痛、生理痛に



第1類医薬品

ロキソプロフェン錠「クニヒロ」は、プロスタグランジンの生成を抑え、痛みや熱に効果をあらわすロキソプロフェンナトリウム水和物を成分とした錠剤です。

<p>効能効果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○頭痛・月経痛(生理痛)・歯痛・抜歯後の疼痛・咽喉痛・腰痛・関節痛・神経痛・筋肉痛・肩こり痛・耳痛・打撲痛・骨折痛・ねんざ痛・外傷痛の鎮痛 ○悪寒・発熱時の解熱
-------------	---

皇漢堂製薬株式会社 尼崎市長洲本通2丁目8番27号
TEL 06-6482-5115(代)

希少疾病(難病)患者への 薬局薬剤師の関わり

未来の社会から望まれる 薬剤師の養成について

座長
 仙台市薬剤師会副会長
 高橋将喜
 仙台市薬剤師会理事
 矢尾板和弘

難病指定の疾病は1460ほどあるが、全難病患者数が少ないこともあり、その実態があまり世間では知られていない。薬剤師の多くも「難病患者さんや家族が薬剤師に求めている支援」や「薬剤師が難病患者さんや家族にできる支援」をほとんど分かっていないのが実情である。本分科会で難病のことを知り、薬局薬剤師は難病で苦しんでいる患者さんや家族へどのように接すれば良いのか。どのような支援ができるのか、などを考えるきっかけになれば良いと思う。また、本分科会に参加した先生方には、「難病と聞くと思わず引いてしまう」といった「難病に対する苦手意識」を克服し、ぜひ難病に取り組んでいただくことを期待している。

本分科会では4人の先生方に講演を依頼しているが、それぞれの講演概要を紹介する。

江崎治朗先生(厚生労働省健康局難病対策課)には、わが国の難病対策の歴史を振り返りつつ、指定難病患者への医療費助成制度や難病相談支援セン

ターの枠組みの解説、難病・小慢対策の見直しに関する意見書(2021年7月、難病と小児慢性特定疾病の合同委員会作成)のエッセンスや全ゲノム解析等実行計画の進捗など、国における最新の動きについて話していただく。

青木正志先生(東北大学大学院医学系研究科神経内科学)には、1999年から開始されている医師・患者・行政が一体となった宮城県神経難病医療ネットワーク事業(宮城方式)の解説を通して、難病患者の療養体制確保には地域の様々な職種の関与が必要であることと筋萎縮性側索硬化症(ALS)と縁取り空胞を伴う遠位型ミオパチーの治療薬開発の進捗について話していただく。

白江浩先生(社会福祉法人ありのまま舎)には、患者さんやその家族が実際にどのようなことに困っているか、薬剤師にどのような支援を期待しているかについて話していただく。

矢尾板和弘先生(仙台市薬剤師会難病患者とその家族をサポートするWG)には、薬局薬剤師は難病患者さんとその家族にどのような支援ができるのか、また支援するためには薬剤師としてあるいは地域薬剤師会としてどのような準備が必要なのかについて話していただく。(高橋将喜)

座長
 日本薬剤師会常務理事
 亀井美和子
 宮城県薬剤師会理事
 我妻恭行

2019年12月公布の薬機法改正において、薬局の定義が「調剤の業務を行う場所」から「調剤の業務並びに薬剤及び医薬品の適正な使用に必要な情報の提供及び薬学的知見に基づく指導の業務を行う場所」に変わり、服用期間中の継続的かつ的確な把握(フォローアップ)が義務化された。また、16年に導入された健康サポート薬局の届出とは別に、知事認定制度が新たに導入されて「地域連携薬局」と「専門医療機関連携薬局」が新たに誕生するなど、地域における薬局・薬剤師の活躍に大きな期待が寄せられている。

その一方で、21年6月に公表された「薬剤師の養成及び資質向上等に関する検討会」の取りまとめにおいては、薬剤師の業務・資質向上と共に薬剤師の養成等に関して、養成(入学定員、薬剤師確保)、薬学教育(カリキュラム、教員、卒業までの対応)、国家試験のそれぞれについて、改善を求める意見が述べられている。変化する社会に対

応するためには、卒後の自己研鑽と共に薬剤師養成を担う大学薬学教育の取り組みが重要であることは言うまでもない。

本分科会は、薬学教育の現状を踏まえた上での未来の薬剤師の養成について全体の動きを知り、議論を深めることを目的に企画した。基調講演では、日本薬剤師会常務理事の長津雅則氏に、日薬の政策提言等を踏まえて薬剤師教育の課題について講演いただく。続いて、厚生労働省、文部科学省、大学において薬学教育・薬剤師に関わる施策に直接関わっておられる立場の演者から講演いただく。

厚労省からは医薬・生活衛生局総務課の磯崎正季子氏、文科省からは高等教育局医学教育課の大久保正人氏、大学からは東北医科薬科大学の吉村祐一氏に登壇いただく。分科会を通じて、薬学教育・薬剤師資質向上に向けた課題、24年度からの導入に向けて改訂作業中である「薬学教育モデル・コア・カリキュラム(令和4年度改訂版)」の考え方などを共有し、これからの6年制薬学教育・薬剤師への理解とイメージを深めていただきたい。ぜひご参加いただきたい。(亀井美和子)

薬剤耐性(AMR)対策、 感染制御における薬剤師の役割

座長
 日本薬剤師会常務理事
 橋場元
 宮城県薬剤師会
 石田真也

2015年のWHO総会において「薬剤耐性に対するグローバル・アクション・プラン」が採択され、G7エルマウ・サミットでは、G7諸国が協調して薬剤耐性菌対策に取り組む方針が盛り込まれた。

日本でも、16年に5年間の薬剤耐性

(AMR)対策アクションプランが公表され、薬剤耐性菌の増加を防ぐために、「普及啓発・教育」「動向調査・監視」「感染予防・管理」「抗微生物剤の適正使用」「研究開発・創薬」「国際協力」の六つの分野で目標と具体的な取り組みが示された。さらに、昨年のG20リヤド財務相・保健相合同会議の共同声明においても、新たな抗菌薬の開発および抗菌薬の慎重な管理について、ワンヘルス・アプローチに基づいて推進していくと宣言された。

このように、AMR対策は全世界的

な取り組みとして推進することが求められている。

本分科会ではわが国のAMR対策アクションプランを踏まえ、取り組まれてきたこと、成し遂げられたこと、さらなる課題などについて、行政、団体、医療現場それぞれの立場から多角的な視点でお話しいただく。

基調講演として厚生労働省健康局結核感染症課の長江翔平室長補佐からは、アクションプランの概略および国際社会の中での日本の取り組みや今後の展開等についてご講演いただく。

日本薬剤師会の堀越博一理事からは、昨年日薬で実施した全国の薬局を対象とした抗菌薬使用動向調査およびAMR対策への取り組みについてご講演いただく。

グラムスキー薬局の瀧藤重道管理薬剤師からは、「グラム染色」を用いた抗菌薬適正使用への関与をはじめとした薬局での取り組みについてご講演いただく。

三重大学病院の新居晶恵看護部長からは、市民に対するAMR対策の普及・啓発活動についての取り組みをご講演いただく。

新型コロナウイルス感染症の世界的パンデミックにより、感染症対策の重要性がさらにクローズアップされる中、各演者のご講演により、AMR対策の知見が深まり、薬剤師の役割についてさらにご理解いただきと共に、現場での実践につなげられる内容となっている。(橋場元)

ENIF シリーズの新しいインターネット発注システム



共創未来グループ

発注業務の効率化

薬剤師様のご意見をもとにした使いやすさ

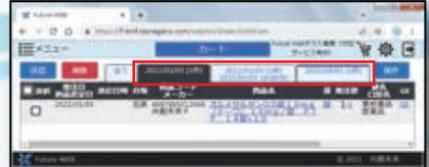
薬剤師様のご意見をもとにした操作性

ENIFのシンプルさを残しつつ、発注業務を行っている薬剤師様のご意見を最大限に反映しました。

- タブレットでも使用可能 (Google Chrome・Microsoft Edge)
- 調剤包装単位GS1データバーに対応 (オプションのバーコードスキャナが必要)



- 発注時点の異なる複数のカート
- PMDAの最新の添付文書にリンク



- シンプルな使いやすさ
- 場所を選ばず使用出来る
- PMDAの最新添付文書を表示



東邦薬品株式会社 CS 営業部
 〒100-6613 東京都千代田区丸の内1-9-2
 グラントウキョウサウスタワー 12F
 TEL.03-6838-2823 (平日 9:00~18:00)

被災地で健康支援に尽力する薬剤師たち

東日本大震災から11年が経過

宮城県薬剤師会の取り組み



避難所の人たちに必要な薬を届け、服薬時の注意点などの説明を行う

2011年3月11日の東日本大震災から11年が経過した。被災地の健康支援や生活環境の改善に薬剤師が力を発揮し、全国各地での震災対応に向けた対策を考える上で大きな教訓にもなった。この10年間における宮城県薬剤師会の取り組みを写真で紹介していく。



医薬品等の保管・管理、払い出し、不足の手配などを行った



宮城県は震災から2日後の3月13日、県庁近隣にある生田山太郎会長(当時)の薬局に緊急の対策本部を立ち上げ、情報収集を中心に対応を開始した。県と打ち合わせし、緊急通行車両の申請、支援薬剤師の募集、集積所での医薬品の仕分け、救護所や避難所での薬剤師業務など、県と薬剤師会との間で取り交わされている協定書に基づき業務を実施した。

日本薬剤師会の災害対策本部に状況報告と支援要請を行い、全国から支援薬剤師が集まり、その数は4,988人に上った。支援薬剤師の支援日数や経験、技能を配慮し、各避難所で必要とされる薬剤師を派遣するコーディネート業務は原簿の役割だ。特に壊滅的な被害を受けた南三陸、女川、石巻には重点的に薬剤師を配置し、支援活動を行った。

想定を超える規模の大災害に当初策定したマニュアルや災害協定に基づき情報交換、指揮命令系統がうまく機能しなかったが、全国から膨大な数の薬剤師が救援に駆けつけてくれたことで、対応できた。

県外から搬入された支援物資を品目ごとに集める物資集積所も設置した。3月17日時点で食品支援倉庫、衣類支援倉庫、生活用品支援倉庫、暖房支援倉庫の4倉庫を確保し、医薬品等の保管・管理、医薬品等の払い出し、不足医薬品の手配、避難所向け救護医薬品セットの作成・供給を行った。

医薬品供給では、避難所へのOTC医薬品リストを作成し、当時の避難者12万人に4,000セットを県で購入してもらい配布した。「必ず薬剤師の手で」を基本に、第1類医薬品は文書をもっての情報提供が必要であったため、文書を印刷・添付により配布した。



「第55回日本薬剤師会学術大会」に出展します
仙台国際センター展示棟 ブースNO JF-1 でお待ちしています

2023年前半リリース予定 ご期待ください!

MDSOL独自の次世代コミュニケーションサービス

- 必要な人に必要な時に必要な指導を
- 短時間で適切に
- しっかりつながる

保険薬局システム

調剤 Melphin/DUO

メルフィン・デュオ

インターネットサービス

メルフィン 検索 <https://www.mdsol.co.jp/melphin/>

三菱電機ITソリューションズ株式会社 MDSOL



被害を受けた県薬会館



爪痕残る被災地

薬を患者に手渡し



説明を受ける薬剤師班(救護)



服薬フォローアップ機能を標準搭載。

- ✓ フォローアップメッセージをLINEで自動送信
- ✓ LINEでのやり取りを電子薬歴に簡単転送
- ✓ 処方と連動して最適な指導コンテンツを送信

※「フォロナビ®」は、株式会社ユニケソフトウェアリサーチと東京理科大学薬学部との共同研究により開発しています。

電子薬歴レセコン一体型システム
P-CUBE n

患者服薬フォローサービス
フォロナビ

NEW
患者さまの安心をプラス
ビデオ通話機能
(オプション)



株式会社ユニケソフトウェアリサーチ

TEL. 03-6747-0030

フォロナビ

検索



第55回日本薬剤師会学術大会
10月9日(日) ~ 10日(祝)月

ユニケブース JS-5 でお待ちしています



江陽グランドホテルで行われた「東日本大震災復興祈念式典」



仮設薬局も整備

条件付きで開設された女川薬局



避難所となっている学校の体育館などに医師と一緒に巡回し、その場で処方された薬剤を調剤し、患者に手渡すなどの支援を行った。

震災から150日経過した段階には、徐々に全面的な支援から部分的な支援に変わるなど復興が進むようになった。そして10月9日には、

避難所となっていた学校の体育館などに医師と一緒に巡回し、その場で処方された薬剤を調剤し、患者に手渡すなどの支援を行った。

震災から150日経過した段階には、徐々に全面的な支援から部分的な支援に変わるなど復興が進むようになった。そして10月9日には、

南三陸町も11薬局のうち10薬局が津波で流出した。総合体育館ベイサイドアリーナの駐車場内に公立志津川病院の仮設診療所があり、すぐ近くで薬がもらえる地域医療の復興のための拠点薬局として「宮城県薬業会営志津川薬局」が同8月に開設された。

避難所を回り薬剤

医療機関も被災したために設置された仮設診療所。薬剤師は棚を作り、そこに薬を並べて医師との連携のもと、避難者に医薬品使用の助言を行った。

災害時には患者が服用している薬が手元がない場合があるため、薬剤師が服用している医薬品に関する情報を聴取し、処方された医薬品に近い薬効を持つ医薬品があれば医師にそれを推奨した。また、医師が処方箋に書いた薬剤がなくても後発品が入手できている場合は後発品を提案することも行った。

江陽グランドホテルで「東日本大震災復興祈念式典」を開催。多くの関係者が詰めかけた。

仮設診療所が整備され、復興のための拠点薬局も整備されることとなった。町民9932人中死者575人に上った女川町。町内の医療機関の被害は甚大で、女川町立病院は16mの高台にあったにも関わらず、1階の天井近くまで浸水したという。町内4薬局全てが壊滅した。

同7月に女川町から特例で会営薬局の開設が可能になったとの知らせが入った。医療機関の敷地に薬局の開設は認められないが、町内の大部分が地盤沈下し、土地の嵩上げ工事が終わるまでは建築許可が下りないため、女川の地が復興するまで公共団体が開設するという条件付きで許可が下りた。



電子薬歴システム

SOAP.Q&S. i-PROUD

SOAP.Q&S(クオリティ&スピード) アイ ブラウド

薬局業務をDXでサポート!



調剤薬局支援システム

NO@H FOR THE PHARMACY.

ノアフォーザファーマシーバージョン7

新世代V7始動。



第55回 日本薬剤師会学術大会 2022 10/9日 10月祝 ノアメディカルシステムの展示ブースにぜひお立ち寄りください!

©ノアメディカルシステム製品に関するお問い合わせ・詳しい資料のご請求は>>福岡支店 TEL 092-263-8608 またはホームページから <https://www.noah-medical.jp/web/>



NOAH MEDICAL SYSTEM
ノアメディカルシステム株式会社

■本社・福岡支店 〒812-0023 福岡市博多区奈良屋町2-1 博多蔵本太田ビル5F TEL 092-263-8608
<https://www.noah-medical.jp/web/> ノアメディカルシステム 検索

■北九州支店 ■久留米支店 ■鹿児島支店 ■熊本営業所 ■長崎営業所 ■宮崎営業所 ■東京営業所



ライブラインが喪失した現地でも負担なく調剤が可能



13年の秋に開発したモバイルファーマシー

東日本台風被害で活躍

災害時に医薬品供給を支援

宮城県は、2013年秋に電気や水などライブラインが喪失した被災地でも医薬品供給が可能なたモバイルファーマシーを全国で初めて開発した。

できる方法がないかと発想したのがモバイルファーマシーになる」と話す。

ある。加茂氏は「卸から届けられる薬についてはモバイルファーマシーが目印になり、1カ所に届けられるのが大きい。運ばれた薬は収納され、患者さんに対して迅速に使うことができる。薬剤師もストレスなく支援ができる」と効力を強調する。

モバイルファーマシーは宮城県薬を皮切りに全国に広がってきており、災害時の医療を支えている。平時においても自治体や小・中学校を対象とした災害時の広報・教育に加え、自治体や病院などと共にモバイルファーマシーを活用した訓練など活用が進んでいる。

10日で処方箋162枚調剤 運用進むモバイルファーマシー



卸から届けられた医薬品を車内に収納

理想の医療空間をカタチに。患者さんと向き合う時間創出を目指して。

Your Partner in Medication
YUYAMA

散薬秤量の自動化を実現!

どなたでも正確・安全に散薬秤量ができる新商品誕生。

NEW

鑑査システム一体型自動散薬秤量機

autoonedu
zero



「auto onedy-zero」の特徴



どなたでも正確な秤量業務。
散薬カセットから直接自動で秤量するため、どなたでも正確に業務を行えます。



散薬カセットへの薬品補充も安全に。
薬品補充の際は散薬カセットのRFIDチップと、充填対象のGS1データバーによるダブルチェック。異なる薬品の混入間違いを防ぎます。

付設薬科機器展示会に出展します! 仙台国際センター展示棟(YK-14)でお待ちしておりますので、最新機器をご体験ください。



製造元 湯山製薬所 株式会社

販売元 YUYAMA 株式会社

大阪本社 〒561-0841 大阪府豊中市名神口1丁目4番30号 TEL.(06)6868-5155(代)
東京本社 〒130-0012 東京都墨田区太平2丁目10番10号 TEL.(03)3829-9511(代)

ユヤマのホームページは→
こちらから



患者さんに寄り添い 在宅医療の未来を拓く

座長
日本薬剤師会常務理事
荻野構一
宮城県薬剤師会
会田道玄

2025年からスタートする地域包括ケアシステムに向けて、医療から介護への切れ目のない対応が求められる中、医療、介護職種全てが取り組みを進めているところである。

薬剤師・薬局にとっても外来医療から在宅医療への切れ目のない対応を進めなくてはならない。薬剤師は

他の職種と連携し、情報共有をしながら薬剤師サービスの提供が求められている。

このような社会背景を理解した上で、これまでの取り組みの充実や質的向上が喫緊の課題となっている状況を踏まえ、改めて薬剤師・薬局が担っていくべき在宅医療について議論をしていきたいと考えている。

本分科会では、厚生労働省医政局地域医療計画課外来・在宅医療対策室松下俊介専門官から「在宅医療における薬剤師への期待、そして未来」と題した基調講演をいただく。40年を見

据えて、薬剤師・薬局の処方箋応需だけでなく、在宅医療への積極的な参加の重要性について解説をいただき、在宅医療における薬剤師・薬局に期待される主な役割について、国の立場からお話をいただけるものと考えている。

その後、日本薬剤師会の有澤賢二理事から「これからの薬局・薬剤師の在宅医療における栄養管理へのかかわり」として、特に高齢者における栄養管理をする上で、服用薬剤の副作用、相互作用等も考慮された栄養管理の必要性について提起をいただき、東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野の田上恵太氏から「住み慣れた地域で最期まで良く生きるために、各地域に必要なケアデリバリー体系とは」として、終末期医療において、地域ごとで

ケアデリバリーシステムやケアフローを構築していくべきなど、医療者が持つべきビジョンについてご提案いただき。徳島文理大学香川薬学部の川添哲嗣氏から「ACP（人生会議）とケアプランを踏まえた訪問計画書とは」として、ACP（Advance Care Planning）やケアプランの活用で、多職種が連携して医療、介護に関わる中で、薬剤師も真の意味での地域包括ケアにおけるチームの一員となることを提起いただく。

本分科会の講演、討論を通じて、25年にスタートする地域包括ケアプランの一員として、地域に求められる役割を確実に担えるより多くの薬剤師・薬局が医療・介護のリソースとなることを期待したい。

(荻野構一)

災害時の薬剤師の役割

座長
日本薬剤師会常務理事
荻野構一
宮城県薬剤師会会長
山田卓郎

2011年に発生した東日本大震災ではそれまで私たちが考えていた災害対策マニュアルの多くは機能しなかった。誰一人として経験したことのない大津波による町の消失。ライフラインが喪失した、限りなくゼロに近いところから始まった支援活動からは様々な問題点が見えてきた。宮城県では薬剤師会、病院薬剤師会、医薬品卸組合、行政が各々の問題を洗い出し、災害時の対応を検討してきた。

本分科会では、まず3人の演者から当時の活動から見てきた問題点とその対策を紹介していただき、次に経験から得た対策と構築された関係性を生かし災害対応に当たった19年の台風19号豪雨災害での医療救護活動について、薬剤師会と行政の立場から発表いただく。また、台風19号豪雨災害で被災地にDMATロジスティクスチーム隊員として支援活動に参加した江川孝先生から、DMAT隊員から見た当時の薬剤師の医療救護活動について感想をいただき、災害時の医療活動を効率的に行うためには何が重要となるのかを考えたい。

日本医師会が組織するJMAT（日本医師会災害医療チーム）はDMATとは異なり、急性期から被災地の地域医療が回復するまでの長期間に渡り医療支援を行う仕組みである。当初は原則として医師1人、看護師2人、連絡

調整員1人で構成されていたが、現在JMAT宮城では構成員に薬剤師が配置されている。どのような経緯で薬剤師が構成員に加わったのかを宮城県医師会常任理事の登米祐也先生から説明していただき、加えてJMAT宮城の今後の活動方針や薬剤師会との連携のあり方などについてお話をいただく。

東日本大震災の発生前、日本には54基の原発があり、日本で使う電力の30%前後を原子力で賄っていた。しかし、東京電力の福島第1原子力発電所の事故により、原発に対する不信感や不安感が強まり、原発の位置づけは大きく変わった。福島県薬剤師会では13年3月に「放射線ファーマシスト委員会」を設立し、放射線の知識を有する薬剤師（放射線ファーマシスト）の養成事業を行っている。その活動を紹介していただき薬剤師がどのように原子力災害に向き合わなければいけないのかを考えたい。また、女川原子力発電所が立地する宮城県では新たに原子力災害時の医療体制も整備され、安定ヨウ素剤の近隣住民への事前配布や避難等の緊急時配布など、原子力災害への薬剤師としての協力のあり方について宮城県震災復興・企画部原子力安全対策課の横田浩志課長から紹介いただく。

最後に日本薬剤師会における災害対策について紹介いただき、分科会全体を通して今後の様々な災害に対応する上での心構えと、災害対策では何が重要になるのかを考えたいと思う。本分科会に参加していただいた皆様が災害対策や災害支援活動を考える一助となれば幸いです。

(山田卓郎)

患者情報を活用したシームレスな 連携と薬物療法の実践

座長
日本薬剤師会理事
井深宏和
宮城県薬剤師会理事
松浦正樹

地域包括ケアシステムは、可能な限り住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、自立生活の支援が目的となっている。その実現に向けて、施設間や多職種の連携が重要であり、薬剤師は薬物療法を通じて患者の生活を支えていくことが大切である。そのために入退院でも途切れることのない薬物療法に関して継続した患者情報の管理が必要である。また、オンライン資格確認の運用開始により薬剤情報や特定健診情報を入手できるようにもなり、その活用も重要になってくる。

本分科会では、基調講演として東北大学医学情報分野中山雅春教授に「患者情報を活用した多施設・多職種連携に向けた取り組み—MMWINの経験から」と題し、みやぎ医療福祉情報ネットワーク（MMWIN）が異なる施設間での患者情報を共有する地域医療情報システムとしても稼働している点を生かし、病名や検査値を参照することにより、処方変更理由の把握や副作用防止のチェックに役立てられた取り組み等を含め講演いただく。

鹿児島県薬剤師会沼田真由美常務理

事から「鹿児島県薬剤師会『おくすり整理そうだんバッグ』の作成と入院時の連携への取り組み」と題し、おくすり整理相談バック事業を多職種間で協議し、多職種を通して残薬の整理に関わり、さらに入院前の残薬整理の実施に至る事例を紹介いただく。

福島県薬剤師会島貫英二副会長から「福島県地域医療連携ネットワーク『キビタン健康ネット』と薬局薬剤師業務」と題し、福島県医療福祉情報ネットワーク協議会が組織され、地域医療連携ネットワークシステム「キビタン健康ネット」の構築・運用が始まり、病院での診療情報、薬局での調剤情報を参照できる現状についてご講演いただく。

三豊総合病院薬剤部篠永浩副薬剤部長から「ポリファーマシー対策と地域連携の実践手法」と題し、入退院支援のフォローや地域連携室との情報共有、薬剤管理サマリ等を用いた連携のために地域連携担当薬剤師を配置した取り組み、またポリファーマシー対策として担当薬剤師を配置し、入院中のみならず退院後も継続するための連携についてご講演いただく。

本分科会では、入退院時の情報の共有だけでなく退院後の生活の中での患者情報の共有のため連携をどのような形で行っていくのか、それを薬物療法にどう生かしていくのかを検討していきたい。

(井深宏和)



クラウド薬歴
ホルトノキ

服薬指導を最適に

薬歴記載は最速で

ブース番号
JS-12

にて出展しております。
ぜひお立ち寄りください。

webからのお問合せはこちら！
<https://dx.emedical.ne.jp/>



お電話でのお問合せはこちら

0268-37-1531(代)

 **ZOO** 株式会社ズー

ホルトノキの3つの特徴！



服薬指導を
適切に標準化



薬歴を
すばやく記載



クラウド型で
いつでもどこでも

医療的ケア児の実態と これからの取組について

座長
日本薬剤師会理事
宮城県薬剤師会理事
村杉紀明
齋藤涼子

地域包括ケアシステムの中で薬剤師が果たす役割については多方面から期待が寄せられており、小児医療の進歩等により約2万人にまで増加しているといわれる医療的ケア児への対応もその領域の一つである。そのような中、成育基本法の制定や2022年度の診療報酬改定における小児特定加算新設など、地域包括ケアシステムを支える薬剤師にとって「やりがいと果たすべき責任」が増していることを多くの薬剤師が実感していると思われる。

本分科会では、医療的ケア児やその家族に対してできる限りの対応をしたいと考える全ての薬剤師に応えるべく、患児や家族の思いを実現し、安心安全で良質な医療を提供するために必要な薬物療法に関する知識や実践に必要な役立つ様々な情報をお届けする。

二つの基調講演では、厚生労働省医薬・生活衛生局総務課の川上貴裕氏から、成育医療等の提供に関する国の役

割や薬剤師に期待することを、国立成育医療研究センター総合診療部長の中村知夫氏からは、医師の立場から医療的ケア児と家族を支える医療チームとして理解すべき事象や、薬剤師の果たすべき役割について講演いただく。

医療的ケア児の薬学的ケアの現状と課題については日本薬剤師会理事の川名三知代氏から、「日本薬剤師会による実態調査の結果」を踏まえて具体例や留意すべき事項などについても紹介いただく。在宅で過ごす医療的ケア児への訪問業務については、三進堂薬局管理薬剤師の佐藤直哉氏から調剤上の工夫や医師との連携する上で押さえておきたいポイントなどについて提示いただく。病院薬剤師の立場からは県立広島病院の笠原庸子氏から、地域の薬剤師に期待することや在宅で過ごす医療的ケア児に必要な薬業連携の実践のあり方について解説いただく。

5人の演者による講演とその後の総合討論の中で、在宅TPNや医療材料、成人用製剤の加工と小児用量、ハイリスク薬の管理、処方意図の理解、レスパイトを含む入退院連携などについて理解を深めると共に参加者と一緒に考える機会としたい。(村杉紀明)

現行の薬学教育モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習の現状と課題

座長
日本薬剤師会常務理事
宮城県薬剤師会常任理事
亀井美和子
熊谷朋久

薬学教育モデル・コアカリキュラム(以下、コアカリ)は、2024年度入学生から新たな改訂版が適用されるが、23年度以前の入学生は現行コアカリが適用されるため、実務実習においては今後数年間は現行のコアカリに基づいて実施される。

現行コアカリに基づく実務実習がスタートしたのは19年2月であり、現在4年目である。薬局実習一病院実習の順番の固定化、連携における大学の役割の明確化、代表的な8疾患の設定、SBO(到達目標)の積み上げから学習成果基盤型へと変わりパフォーマンス評価が導入されるなど、現行コアカリは前コアカリから大きな変更があったことから、日本薬剤師会教育委員会では「薬局実務実習指導の手引き2018年版」を作成し、実務実習の円滑な実施をサポートしている。また、現行コアカリに基づく実務実習の初年度には全国調査を実施し、大きな問題は生じ

ていないことを確認している。しかし、その後のコロナ禍により、実務実習自体の実施が困難となる状況も発生した。このようなことを踏まえ、本分科会では、4年目となった現行コアカリに基づく実務実習の現状と課題について、大学、薬局、病院の立場から報告いただき、今後の実務実習のあり方について討議することを目的とした。

まず、基調講演として、地区調整機構の立場からの現状と課題を奥羽大学薬学部医療薬学教室の伊藤鍛氏に講演いただく。その後、大学の立場からは帝京大学薬学部医療薬学講座薬物治療学研究室の日下部吉男氏、薬局の立場からは兵庫県薬剤師会の三宅圭一氏、病院の立場からは千葉大学病院薬剤部の石井伊都子氏に講演いただく。薬学実務実習は、6年制薬学教育課程で最も重要視される学修であり、学習内容だけでなく、実習受入施設や指導薬剤師の存在が、学生のその後の人生(学習、進路など)に大きく影響する。指導薬剤師をはじめ実務実習に関わる皆様に参加いただき、現状と課題点を共有する機会としたい。(亀井美和子)

薬物療法における薬剤師・薬局の 継続的なフォローアップの在り方と 医療機関との連携の在り方について

座長
日本薬剤師会副会長
宮城県薬剤師会理事
森昌平
市ノ渡真史

調剤業務を通じて培ってきた薬剤師・薬局による患者の薬物療法における継続的なフォローアップや医療機関との連携については、医薬品医療機器等法の改正で調剤後のフォローアップの法的位置づけが明確化されたこと

や、2022年度調剤報酬改定における対人業務の評価の充実、医療機関との連携推進等により、さらなる期待が形となり示されてきた。さらに、7月に公表された「薬局薬剤師ワーキンググループのとりまとめ」においても、調剤後のフォローアップ強化等を通じて対人業務を充実させると共に、他職種や病院薬剤師と連携し地域における薬剤師の役割を發揮することがアクションプランに盛り込まれた。

分科会17では、今後、薬剤師・薬局

が患者とどのように向き合い、継続的なフォローアップを充実させていくのか、また、医療機関との連携はどうあるべきかについて議論する。5人の演者による講演とその後の総合討論を通じて、薬剤師・薬局による、より良い薬物療法の提供のあり方を考えたい。

まず、基調講演として、内閣府食品安全委員会事務局評価第一課の紀平哲也課長から、「令和4年度調剤報酬改定と薬剤師へのメッセージ」と題して講演いただく。次に、宮城県薬剤師会の青木浩朗常務理事から、「宮城県における薬局薬剤師と医療機関の連携事例と課題」と題してお話しいただく。また、ハートエンタープライズ代表取締役/ハート薬局管理薬剤師の西島徹氏から、「調剤後のフォローアップに

関する実施事例」と題して、薬局薬剤師による継続的なフォローアップの事例をお話しいただく。さらに、宮城県薬剤師会の手代木貴也理事から「慢性疾患患者への薬学管理の実際」と題して、かかりつけ機能を發揮した一元的・継続的管理についてお話しいただく。最後に、日本薬剤師会の有澤賢二理事から「医療機関、多職種との望まれる連携の在り方」と題して、医療機関とのさらなる連携推進に必要な事柄についてお話しいただく。

ぜひ分科会17に参加いただき、継続的なフォローアップのあり方と医療機関との連携のあり方について議論を深め、薬剤師・薬局が地域でさらに活躍するための一助となれば幸いです。

(市ノ渡真史)

第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

<p>社公 団法人益 東京 都 薬剤師 会</p> <p>〒101-0054 電話 千代田区神田永田泰造 〇三(三二九四)〇二七</p>	<p>社一 団法人般 埼玉 県 薬剤師 会</p> <p>〒330-0062 電話 さいたま市浦和区仲町三十五 〇四八(八二七)〇〇六</p>	<p>社一 団法人般 福島 県 薬剤師 会</p> <p>〒960-8157 電話 福島市蓬萊町二一 〇二四(五四九)二一九</p>	<p>社一 団法人般 山形 県 薬剤師 会</p> <p>〒990-2411 電話 山形市前田町一七一 〇二三(六二二)三四八</p>	<p>社一 団法人般 秋田 県 薬剤師 会</p> <p>〒010-0874 電話 秋田市千秋保田町六一 〇一八(八三三)二三三</p>	<p>社一 団法人般 岩手 県 薬剤師 会</p> <p>〒020-0876 電話 盛岡市馬場町三一 〇一九(六二二)二四六</p>	<p>社一 団法人般 青森 県 薬剤師 会</p> <p>〒030-0961 電話 青森市浪打一六一 〇一七(七四二)八八二</p>	<p>社一 団法人般 宮城 県 薬剤師 会</p> <p>〒989-3126 電話 仙台市青葉区落合二一 〇二二(三九一)一一八</p>
--	---	--	---	--	--	--	--

新型コロナワクチンと治療薬の展望

座長
日本薬剤師会常務理事
高松登
宮城県薬剤師会常任理事
高橋文章

新型コロナウイルス感染蔓延が2年半にわたって続いている。コロナウイルスは様々な系統へと変化しながら感染拡大を繰り返しており、今後も新たな変異株に対して警戒していく必要がある。しかし、人類もウイルスとの闘いにおいて様々な知見を得てきた。新型コロナワクチンの開発と接種の推進、複数回接種による重症化率や死亡率の低減効果、各ワクチンの特性や有効性、副反応の発生状況など、データの蓄積と解析が進み、より効果的で安全な使用方法が推奨されるようになった。本分科会では、コロナ禍における医療現場の状況を振り返ると共にワクチンの有用性を再確認し、薬剤師がワクチンや治療薬の普及並びに供給に対してどのように取り組むべきか、今後の治療薬等の展望も含めて議論理解を深めていきたい。

最初に日本大学医学部病態病理学系微生物学分野早川智教授から、医療の中でも特殊な状況下にあった産婦人科医の立場から、過去に大流行を引き起こした感染症と社会への影響を顧みると共に、コロナ禍での妊娠・出産の状況を「COVID-19から母子を守る：産

婦人科医のできる」として妊婦への影響や治療薬の選択肢なども含めた観点から講演していただく。特に妊婦や胎児に関する感染対策上の注意点や、治療薬を選択する際のポイントなどは聞き逃すことはできない。

続いての演題は、日本薬剤師会川上純一副会長による「新型コロナワクチンの薬事承認から見たワクチンの有用性」についてである。これまで不活化ワクチンが製法の主流であったが、新型コロナワクチンでは、mRNAワクチンやウイルスベクターワクチンなどが新しい創薬技術によって誕生した。これらワクチンの薬事承認や特例承認の議論も踏まえてその有効性について概説いただくと、緊急承認の仕組みも含めた議論の経緯など興味深い講演である。

3演題目は、最前線で薬剤師が関わったワクチン・治療薬に係る取り組みの報告である。薬剤師が担う地域の医薬品提供体制を維持するため、感染防止対策を講じながら行った活動について、福岡県薬剤師会の事例を原口亨会長に講演していただく。普段の地域連携の重要性や積極的な薬剤師会の活動が迅速な取り組みにつながっており、参考にすべき報告である。各地域で「薬剤師による新型コロナワクチン・治療薬の普及・供給への取り組み報告」を参考にしていきたい。

(高松登)

新型コロナウイルス

感染防止拡大と薬剤師の役割

座長
日本薬剤師会理事
一条宏
仙台市薬剤師会常務理事
男澤貴子

2020年2月に、豪華観光船ダイヤモンド・プリンセス号の寄港で出現した新型コロナウイルス感染は、22年になっても次々と新種のウイルスが変異して現れ、人々の不安を煽っている。その対策として、ワクチン接種が感染症の発症と重症化を予防することに有効であると示唆されてきた。

このような中で、21年5月に大規模接種センターが仙台市を含めて全国で3カ所に設置されている。このセンターは、東北大学ワクチン接種センターとして開設され、新型コロナウイルス感染症対策として重要な手段であるワクチンをより多くの人に安全に接種するため、東北大学、宮城県、仙台市の連携のもとに運営されてきた。

そして、自治体を通じ病院薬剤師会、宮城県・仙台市薬剤師会、卸勤務薬剤師会にも協力要請があり、支援を行うことになった。開設期間は1年2カ月におよび、今年7月末に一旦その役割を終えている。

また、同センターでの接種回数は78万8000回となり、宮城県全体の接種回

数の約14%を占め、仙台市の接種回数の22%に及んでいる。開設直後には各セクター間でどのように協力し、安全に効率的な接種体制を運営するかなど手探り状態が続いていたが、接種ブースに無駄なくワクチン供給するなどの体系的な対応も導入することでスムーズな運営ができるようになった。

この接種センターの運営に関しては、医療従事者や自治体の貢献はもとより、薬剤師も医療人の一員として大切な責務を果たした。さらに、目に見えないところでワクチンの希釈や充填といった調整や接種ブースにタイミングよく供給するなど接種会場で奔走する薬剤師の姿もあった。

この分科会20のセッションではワクチン接種を通じて、医療関係者間での連携のあり方、ワクチン管理と供給の重要性について、接種センターでその対応に当たった3人の演者に薬剤師の役割とこれからの課題について講演を依頼している。さらに、日本薬剤師会からは、将来、薬剤師によるワクチン接種が必要になった際の対応などを含めて、全体の取りまとめをお願いした。今回のセッションが新型コロナ感染拡大の防止のため薬剤師として本来の役割の発揮につながることを切望している。

(一條宏)

活用していますか?RMP

座長
日本薬剤師会副会長
川上純一
医薬品医療機器総合機構安全性情報・企画管理部長
大澤智子

「医薬品リスク管理計画書(RMP)とは何ですか」「日々の業務で活用していますか」と問われた際、薬剤師の皆さんに自信を持って答えていただけるようになるのが本企画の狙いである。

RMPとは、医薬品の開発、審査、市販後の一連のリスク管理を一つにまとめた文書である。医薬品の添付文書にも承認条件として「医薬品リスク管理計画を策定の上、適切に実施すること」と記載されている。

RMPは、安全性検討事項、医薬品安全性監視計画、リスク最小化計画の三つで構成される。安全性検討事項は、重要な特定されたリスク、重要な潜在的リスク、重要な不足情報の三つに分けて記載される。医薬品安全性監視計画とリスク最小化計画には、全ての医

薬品に対して行われる「通常」の活動と、個々の医薬品の特性に合わせて行われる「追加」の活動がある。

添付文書とRMPではリスクの記載に違いがある。添付文書には治験等で確認された副作用が記載されているが、治験時の症例数は限られており高齢者・小児などの情報も不足している。一方、RMPには既に確認されたリスクだけでなく潜在的リスクや不足情報も記載されている。特にRMPは重要とされるリスクにフォーカスして作成されている点がポイントである。

医療現場でRMPが有用となる場面としては、新薬採用時のリスク把握の情報源、患者さんにおける副作用モニ

タリング、RMPで追加のリスク最小化活動と定めている患者・医療従事者向け資料を用いた情報提供などが考えられる。このように市販後安全対策におけるRMPの重要度は高まる一方で、その認知度や利活用については必ずしも十分ではないのが実状であろう。

本分科会では、PMDA、薬局、病院それぞれの立場におけるRMP利活用促進のための活動と、製薬企業の視点からRMPを通じた情報提供への取り組みについてご紹介いただく。各講演や討論を通じて、RMPを利活用した薬剤師業務がさらに進展し、患者さんにおける薬物治療の質・安全性向上に資することを期待する。(川上純一)

第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

 <p>公益社団法人 日本薬剤師研修センター</p> <p>〒105-0003 東京都港区西新橋二丁目三番一 電話 〇三(六四五七)九〇四一</p>	 <p>公益社団法人 薬剤師認定制度認証機構</p> <p>〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目九番二 電話 〇三(三五一九)五八三八</p>	 <p>一般財団法人 日本医薬情報センター</p> <p>〒150-0002 渋谷区渋谷二丁目一五(長井記念館) 電話 〇三(五四六六)一八一</p>	 <p>一般財団法人 医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団</p> <p>〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目一五(長井記念館) 電話 〇三(三三四〇)五三三八</p>	 <p>一般社団法人 日本病院薬剤師会</p> <p>〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目一五(長井記念館) 電話 〇三(三三三七)五〇三〇</p>	<p>九州山口薬剤師会</p> <p>福岡県薬剤師会 佐賀県薬剤師会 長崎県薬剤師会 熊本県薬剤師会</p> <p>大分県薬剤師会 宮崎県薬剤師会 鹿児島県薬剤師会 鹿兒島県薬剤師会</p>	<p>一般社団法人 大阪府薬剤師会</p> <p>〒540-0019 大阪府中央区泉町一丁目三十八 電話 〇六(六九四七)五四八一</p>
---	---	--	---	--	---	---

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

患者支援へシームレスな連携

PHC

PHCは、薬局業務の効率化と患者満足度の向上に貢献できる多彩な電子薬歴システムや患者サービスを揃えている。

クラウド薬歴「DrugstarLead」はタブレットなどのモバイル端末を用いて服薬指導から薬歴承認までの一連の業務を効率的に完結できる、薬剤師の対人業務支援ツールだ。薬の変更点を印刷して、患者とのコミュニケーションを促進し、薬識向上と服薬継続を支援する機能や、患者自身のスマートフォンを使って、非接触で問診アンケート(先確認ヒアリング)が提供できる機能を備えている。加えて、オンプレミスとクラウドがリアルタイムに同期するハイブリッド型の特徴を生かして、いつでも、どこでも、必要なときに場所を選ばず、タブレット・スマホから薬歴簿の参照・入力・承認が可能に

なっている。

電子薬歴システム「PharnesV-MX」は、シンプルで分かりやすい電子薬歴だ。レセプトコンピューターと薬歴をシームレスに一体化した電子薬歴システムで、患者の薬歴表紙、監査情報、過去薬歴など必要な情報を1画面で確認でき、処方監査、薬歴作成がスムーズに行える。オプションの「リモート薬歴ソフト」を使用すれば時間外、在宅など、薬局の外からでも薬歴の参照や入力もできる。薬局内のノートPCを持ち出して、いつも通りのPharnesのクライアントとして、処方薬に関するチェックや添付文書の確認などのデータベース含め、薬局内と同じように使うことができる。

「DrugstarPrime」は先確認・先指導に取り組むための業務効率化と、患者のQOL向上をテーマとした服薬ア



ドヒアランスの向上に取り組む薬剤師を支援する高性能の電子薬歴システムだ。薬剤師のマネジメントによる薬物治療の最適化と、多職種との効率的な情報共有をサポートする。

ヘルスケア手帳は薬局での待ち時間をなくし、紙のお薬手帳を電子化・進化させることで患者の時間と健康を守るサービスだ。スマホアプリを通じて処方箋受付から服用管理、オンライン服薬指導や配薬・決済、さらには患者へのフォローアップまでを支援するこ

とができる。

患者がアプリで撮影した処方箋画像が薬局に届くことにより、事前に薬を準備ができ、そして患者へ準備完了の通知ができるため、薬局の業務効率向上だけでなく、患者の待ち時間有効活用での満足度向上や、新規の薬局利用者の獲得が見込める。また、服用薬を管理する電子版お薬手帳の機能は、電子薬歴システム「PharnesV-MX」「DrugstarPrime」とのシームレスな連携が可能となっている。

話題の調剤支援システム

関連記事18~22ページ

「マネジメント本部システム」展開

ネグジット総研「調剤くんV7」

ネグジット総研の「調剤くんV7」は、長年レセコン開発に携わり薬局業務を熟知したメーカーだからこそできる「かかりつけ薬剤師システム」をコンセプトに、薬局業務の効率化や患者服薬指導の向上を目指し、業務に即した画面設計や操作性を実現している。

「V7」では「マニュアルいらず」をテーマとし、見やすい画面構成で誰もが直感的で容易な操作を実現するために、ボタンの配置や大きさ、入力者毎に対応した文字サイズ、ファンクションキー対応操作画面など、使いやすさを追求しニーズの変化に対応した機能進化を果たしている。

窓口業務機能では、処方箋に印字されているバーコードをスキャンするだけで、患者頭書情報、処方箋情報が自

動入力される「2次元バーコードくん」や処方箋画像や患者アンケート、保険証などの画像を調剤録画像に印字されたコードと該当患者を紐づけし自動保存する「らくらく読取くん」などを標準装備している。薬局運営のかゆいところに手が届く機能として、毎年報告が必須となる「施設基準届出調査」に関する集計が1画面で完結する日計画面や未収金・過収金がある患者の確認・調整・領収書印刷に特化した「入金管理ツール」などを実装し、薬局業務効率化を推進している。「電子調剤録」にも対応しており、窓口業務の簡素化、ペーパーレス化に役立っている。

かかりつけ薬剤師の業務を支援する機能では、患者固有の情報や服薬指導

内容など必要な情報を一元的に管理し、個々の患者に応じた服薬指導を支援する管理機能が充実。これまでの医薬品相互作用データベースに加えて、病名・代表病名(適応、禁忌病名、副作用など)や規格違い・類似名称、警告・禁忌情報、アレルギー、改訂指示・医薬品安全性情報(DSU)、小児患者の体表面積によるチェック機能などがあり、ヒヤリ・ハットの防止や服薬指導に役立つ各種データも標準搭載している。

今年度はチェーン薬局向け経営管理システム「マネジメント本部システム」をリリースした。

ダッシュボード表示を採用すること



により、本部で経営者が各店舗の日計、月計、来局患者数およびレセプト請求の実行状況等の経営データを瞬時に確認、閲覧することができる。

また、同システムはNSIPSデータを利用し集計することによりレセプトコンピューターメーカーを問わず導入できることも特徴の一つになっている。クラウドでの運用になるため初期導入コスト、月額利用料も安価で導入できるシステムである。

第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)



東京理科大学 薬学部

〒278-8510 野田市山崎二六四一



日本薬科大学

〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町小室一〇二八一



城西大学 薬学部

〒350-0295 埼玉県坂戸市けやき台一



奥羽大学 薬学部

〒963-8611 郡山市富田町三角堂三一



東北医科薬科大学

〒981-8558 仙台市青葉区小松島四一四



日本薬局協励会

〒151-0053 渋谷区代々木三



日本チェーンドラッグストア協会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門一

日本ジエネリック製薬協会

〒103-0023 中央区日本橋本町三一

薬局・薬剤師のDX推進を支援

EMシステムズ「MAPs for PHARMACY DX」

EMシステムズは、薬局向けクラウド型業務支援システム「MAPs for PHARMACY DX」の年内リリースに向け開発を進めている。2019年にリリースした「MAPs for PHARMACY」の製品コンセプトをリニューアルし、これからの薬局・薬剤師業務のデジタルトランスフォーメーション(DX)推進を支援する

薬局業界では、対物業務から対人業務への対応やコロナ禍の影響による薬局業務形態の進化、診療報酬改定への対応など大きな環境変化があり、その対応に迫られている。

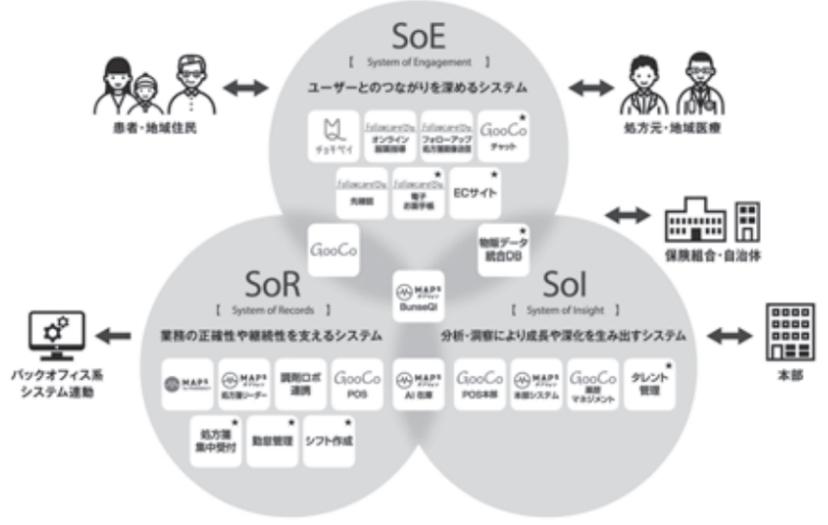
「MAPs for PHARMACY DX」は、レセコンや電子薬歴の枠を超え薬局DXを通じて、「モノから人へ」に対応した薬局をサポートし、薬剤師や患者の顧客体験であるユーザーエクスペリエンス(UX)を高め、#TX(Thanks Transformation)を実現する「オー

ルインワン・ファーマシープラットフォーム」

DX推進に役立つシステムとして、大きく三つの方向性を意識している。各種機能を、▽ユーザーとのつながりを深める「SoE」▽業務の正確性や継続性を支える「SoR」▽分析や洞察により成長や進化を生み出す「SoI」の三つに分け、各領域での機能拡充を目指している。

新たな機能の一つが働き方改革を支援する「処方箋集中受付」。クラウド型レセコンの利点を生かし処方箋入力作業がどこでも行える。電子処方箋やオンライン服薬指導等への対応など複雑化する薬局業務もワンコントロールでシンプルに管理が可能。また、医薬品発注業務も薬歴情報と人工知能(AI)の活用により業務を大幅軽減し、本部主導の在庫管理を実現する。

さらに、電子薬歴と患者のスマート



フォンを連携することで、先確認からフォローアップまで対応。服薬指導やフォローアップでは、処方内容に応じたサジェスト機能があり、薬剤師のキャリアに依存しない質の担保と業務効率化につながる。

検査値をもとに最適な投与量や禁忌などを自動的にチェックする機能もあ

り、リフィル処方箋への対応を後押しする。他にも、医師への報告をサポートするAI報告文書作成(オプション)や企業や店舗内、地域連携、医師等とのコラボレーションに活用できるチャットアプリ、薬局経営と薬剤師評価を支援するデータ分析ツールの拡充を予定している。

小児へのチェック機能も充実

ズー「ホルトノキ」

ズーが8月にリリースした「ホルトノキ」は、薬局業務の効率化や対人業務の充実を目指したパソコンとタブレットのどちらでも使えるクラウド型電子薬歴だ。適切な内容に服薬指導を標準化し、シンプルな操作で薬歴記載を短時間で完了させることを目指して開発された。

ホルトノキでは、前回処方と今回処方の違いが一目で分かるようになっており、素早く確認をして服薬指導を行うことができる。副作用の状況によって、確認すべき検査値の項目が自動でセットされるため、確認漏れを防ぐことができる。

服薬指導の内容は、各社のレセコンから処方データを受け取り、薬剤や患者の情報と照らし合わせることで、マスタから服薬指導文章の候補をチェック項目で表示。薬剤の効能効果についての指導はもちろん、使用上の注意、

生活上の注意、併用薬、副作用など、様々な視点でマスタは作成されている。服薬指導文章のマスタは細かいカスタマイズも可能で、薬局や企業ごとのこだわりを反映することもできる。共通の指導文を参考に服薬指導を行うことで、経験やスキルの異なる薬剤師の服薬指導内容の標準化を実現する。

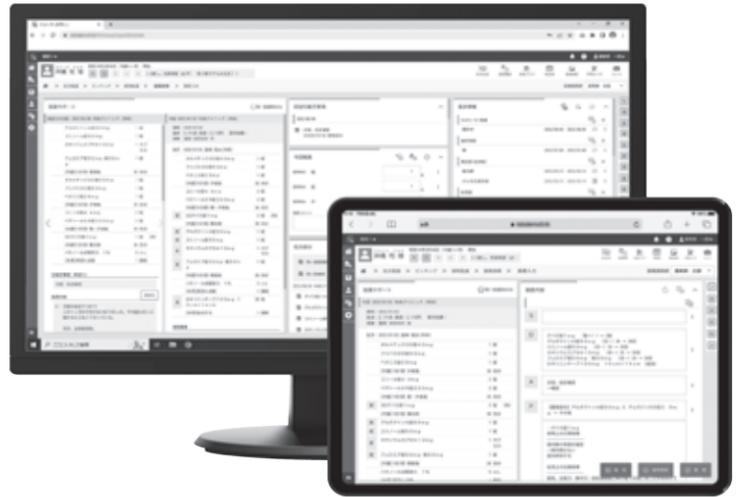
また、服薬指導の内容に合わせてチェック項目を選択して転記ボタンを押すだけで、薬剤師が書いたような自然な文章で素早く薬歴の記載を完了することができる。これにより薬歴記載業務を大幅に効率化し、患者とのコミュニケーションの充実化を図ることができる。

他にも、会話しながらでもフリーハンドで記録できる手書きメモや、タブレットなどのカメラで撮影した写真を薬歴に紐づけて保存できるので、後になって忘れてしまったということ

を防ぎ、正確な薬歴記載をサポートする。

さらにレセコンメーカーならではの独自の処方鑑査機能を搭載しており、処方内容に対して患者の既往歴やアレルギー、併用薬、重複投与、薬剤の用法用量などを自動でチェックし、調剤後の手戻りを防ぐ。特に小児の処方箋における数量・日数チェック機能には力を入れており、年齢や体重で異なる分量を計算して、調剤ミスの防止につながる。

同システムはウェブブラウザで動くクラウド型システムであり、タブレッ



トでもPCでも使えるので場所を選ばずに使用できる。データはクラウド上にあるため、大災害等の緊急時でも活用可能だ。

ズーでは、今後ホルトノキを電子薬歴にとどまらず、処方入力やレセプト請求、在庫管理、本部、会計など、様々な機能を追加してオールインワンの調剤システムとしていく計画だ。

第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

第一薬科大学
〒815-8511
福岡市南区玉川町二二一

神戸薬科大学
〒658-8558
神戸市東灘区本山北町四一九一

立命館大学薬学部
〒525-8577
滋賀県草津市野路東一丁目一

京都薬科大学
〒607-8414
京都市山科区御陵中内町五

横浜薬科大学
〒245-0066
神奈川県横浜市戸塚区俣野町六〇一

明治薬科大学
〒204-8588
東京都清瀬市野塩二一五二二一

武蔵野大学薬学部
〒202-8585
東京都西東京市新町一三三三〇番

東京薬科大学薬学部
〒192-0392
東京都八王子市堀之内一四三二二一

チャットで服薬状況を自動確認

三菱電機ITソリューションズ
「調剤Melphin/DUO」

三菱電機ITソリューションズは、過去35年以上にわたり薬局向けシステムの開発や販売を手がけてきた。同社が提供する保険薬局向けシステム「調剤Melphin/DUO」シリーズは、処方箋受付から服薬指導まで保険薬局の業務を幅広くカバー。さらにオプションシステムの組み合わせによって、保険薬局に特化したセミセルフ型も可能なPOSシステムと連動する機能や、在庫管理・経営管理といった経営面までトータルに支援する機能を備えている。

昨今、多くの企業が業務効率化・生産性向上、価値創造やビジネスモデルの変革に向けてデジタルトランスフォーメーション(DX)への取り組みを行っている。保険薬局も例外ではなく、DX化の波が押し寄せてきている。今回の新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけにして一気にオンライン化が進んでいることが一例だ。患者

が自宅にいながらオンライン診療で医療機関を受診、電子処方箋が任意の薬局に送信され、オンライン服薬指導を受けるといった流れが当たり前になる時代がすぐそこまできている。

今回、同社の展示ブースでは「薬局トランスフォーメーション-DX化で目指す薬剤師・薬局の未来」をテーマに、急激な変化への対応を求められている薬剤師・薬局を支援する様々な機能を紹介する。

例えば、電子薬歴システム「Melhis」では、新たに開発した「服薬指導ガイド」(SY-POS2)により、患者特記・併用薬・処方内容・過去の薬歴といった情報をもとに、薬剤師が指導・確認すべき項目を自動的に抽出、提案する。提案内容は処方時期によっても変わり、初回処方では服用の仕方、2回目では副作用の有無の確認が提案されるという。指導後は画面上で服薬指導を

行った項目にチェックを付けるだけで自動的に薬歴が作成され、追加の情報があればキーボードから入力することも可能だ。



しっかりした服薬指導と薬歴作成ができた上で、業務を効率化することをコンセプトに製品化されており、電子薬歴作成業務が効率化されることで、対人業務への時間創出が実現され、かかりつけ薬剤師・薬局の役割発揮に寄与するという。

フォローアップ機能も充実している。継続フォロー対象患者に対してフォローアップ日程の自動作成が可能だ。さらに、昨年業務提携を発表したメドピアの「kakari」との連携により、「kakari」を利用している患者に自動的に服薬状況確認チャットを送信、患者からの回答を自動で薬歴に記録できるようにになり、薬剤師・薬局と患者の

円滑なコミュニケーションをサポートする。

そのほか、チェーン薬局向けに、在庫管理/経営支援/薬歴共有といったクラウド型本部システムでチェーン薬局の管理業務もサポートする。各店舗の処方箋入力を本部で代行する「入力センターシステム」で店舗の事務作業、事務要員の省力化も可能としている。

薬局・薬剤師への期待の高まりと共に薬局の業務領域は拡大の一途を辿っているが、同社は製品やサービスの提供を通して、薬局の変化をサポートしていく考えだ。

「zeroモード」搭載自動散薬秤量機

ユヤマ「auto onedy-zero」

ユヤマは誰でも簡単に安全に操作ができる新機能「zeroモード」を搭載した鑑査システム一体型自動散薬秤量機「auto onedy-zero (オートワンディゼロ)」を新発売した。

厚生労働省の「患者のための薬局ビジョン」で提唱された対物業務から対人業務へのシフトという方針に合わせ、薬剤師の対人業務が増加しているが、処方箋への対応に含まれる対物業務も疎かにできない大切な業務。

その一つが神経を使う薬品の秤量。従来は薬剤師が薬匙と電子天秤を使って微妙な秤量調整を行うが、経験や技術が必要になってくる。

「auto onedy-zero」では、誰でも簡単に安全に操作ができる機能として開発された「zeroモード」を搭載しているため、業務経験に関係なく簡単な操作で

誰でも確かな秤量が自動で行える。まずレセコンから処方が発行されると、連動している散薬分包機の制御端末が受け取り、処方監査、承認を薬剤師が行うと、「auto onedy-zero」にデータが送られる。「auto onedy-zero」の画面で秤量対象の処方データを選択すると薬品名が表示されるため、対象の散薬カセットを本体に装着。秤量皿を天秤上に置き、風防カバーを閉めると自動的に秤量を開始する。風防カバーは秤量が終わるまでカバーが開かないようにロックがかかる安全設計になっている。

また、秤量皿にRFIDラベルが貼られているため分包機側の読み取り装置に照合すると分包機の未処理データから該当の処方データが展開。患者データの選択ミスを防げる仕組みだ。

散薬カセットの内容量は300cc。カセット自体にRFIDラベルが貼られているため、本体装着時に秤量対象薬品で合っているか確認できる。挿し間違っているとアラートが出て警告する。秤量はカセット装着を行ったフィーダー部で払い出し量を計測。さらに散薬鑑査システム一体型電子天秤「onedy-EX2」での実測値をもとに最終確認を行うため、確かな秤量値を担保している。



オプションとして、電子ペーパーを取り付けた秤量皿もあり、処方番号や薬品名を表示できるため、秤量後の薬品特定が可能。また、秤量撮影機能を備え、秤量結果のエビデンス用記録として活用できる。既に「onedy-EX2」を導入している場合でも、「auto onedy-zero」を装着することで自動秤量が可能となる。

誰にでも操作を安心して任せられることで、ますます重要になった薬剤師の対人業務の時間確保のツールとして期待される。

第55回日本薬剤師会学術大会付設薬科機器展示会では「auto onedy-zero」をはじめ、業務シフトに役立つ最新の調剤機器を展示する予定だ。

第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)



クレコンリサーチ&コンサルティング株式会社
代表取締役社長 木村 仁
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷二丁目1番5階
電話 〇三(三四〇七)二〇一四番

日東メディック株式会社
代表取締役社長 中井 龍
〒939-2366 富山県富山市八尾町保内一丁目一
電話 〇七六(四五五)三四五一

中北薬品株式会社
代表取締役社長 中北 馨介
〒460-8515 名古屋市中区丸の内三丁目一五(油伊ビル)
電話 〇五二(九九七一)三六八一

岩城製薬株式会社
代表取締役社長 西久保 吉行
〒103-8434 中央区日本橋本町四丁目八十二
電話 〇三(六六二六)六二五〇

帝國製薬株式会社
代表取締役社長 藤岡 実佐子
〒769-2695 香川県東かがわ市三本松五六七番地
電話 〇八七九(二五)二二二二

久光製薬株式会社
代表取締役社長 中富 一榮
九州本社 〒810-0017 佐賀県鳥栖市田代大官町408番地
東京本社 〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号

ゼリア新薬工業株式会社
代表取締役社長 伊部 充弘
〒103-8351 東京都中央区日本橋小舟町一〇一
電話 〇三(三六六三)二三五二番(代表)

大塚製薬株式会社
東京本部
〒108-8242 東京都港区港南二丁目十六番四
電話 〇三(六七七一)一四〇〇(代表)

LINEで継続的服薬フォロー

ユニケソフトウェアリサーチ「P-CUBE n」

ユニケソフトウェアリサーチの電子薬歴レセコン一体型システム「P-CUBE n」は調剤後の服薬期間について継続的なフォローアップを支援するサービス「フォロナビ」を標準搭載している。電子薬歴とLINEを活用することで、薬剤師と患者のコミュニケーションをアシストし、効果的な服薬管理と患者・薬剤師の負担軽減を実現する。

2020年9月に施行された改正医薬品医療機器等法で薬剤師による継続的な服薬フォローアップが義務化された。同年4月の調剤報酬改定で設けられた「服薬管理指導料」でも、継続的な服薬フォローアップが算定の条件とされている。

「P-CUBE n」は、「電話や対面だと時間が取れない」「スケジュールやタスクの管理が煩雑」「どのようなフォローをすれば良いかわからない」「薬

剤師のスキルや経験によってフォローアップのレベルにバラツキがある」といった薬局が服薬フォローアップを行う際に直面している課題を解決するサービスとなっている。

具体的には、「P-CUBE n」に標準搭載されているフォロナビの機能により、電子薬歴から患者のLINEにフォローアップメッセージを自動送信でき、フォローアップの実施が可能。フォロナビの管理画面からメッセージの予約送信を行えるため、服薬に関するフォローからリフィル処方箋の期限お知らせなど、患者のライフスタイルに合わせたサービスの提供が行える。

また、送信されるフォローアップコンテンツは処方された薬剤や患者の状態に合わせて、医薬品や疾患、患者の生活状況確認、使用状況確認など12カテゴリ、41種のコンテンツから最適な

内容を選択するだけでフォローアップを行えるため、薬剤師の経験やスキルに依存することなく、質の高い服薬管理が実施可能だ。

フォローアップを受け取る患者も、電子薬歴から送信された質問に対する回答を選択するだけで返信を行える。回答内容によっては体調や副作用の確認、アドヒアランスの確認など自動で新たな質問を投げかけ、患者の問題解決を促す。

電子薬歴のメイン画面には患者の処方内容より服薬フォローの必要有無をアイコンで表示。薬剤師が忙しい場合にもフォローアップを必要とする患者を見逃さない仕組みを整備している。

LINEでのフォローアップとやり取



りは全て電子薬歴に転送され、取り込むことが可能。フォローアップの薬歴入力とその情報をもとにしたトレーニングレポートを効率的に作成でき、薬局・薬剤師業務への負担を軽減し、多くの情報を医療機関に提供することができる。

こうした多様な機能が強みとなり、フォローアップに取り組む薬局からも多くの引き合いが来ているという。

保険薬局のDX実現を加速

ノアメディカルシステム

「NO@H FOR THE PHARMACY V7」

ノアメディカルシステム（福岡市）は、調剤薬局支援システム「NO@H FOR THE PHARMACY V7」（ノアフォーザファーマシーバージョン7）の販売を9月から開始した。

「NO@H FOR THE PHARMACY V7」は、25年以上にわたる薬局ユーザーの要望を調査研究し、レセコンに求められる基本機能である「入力」「チェック」「投薬」「会計・請求」に至るまでの一連の業務を、快適・簡単に行えるようにバージョンアップしている。

処方入力には「今回・前回の処方比較」を確認できるように処方比較画面を配置して、患者情報等の分析・評価ができ、適切な処方監査につながる。画面デザインは、フルHDの解像度に対応したワイド画面に「新化」し、必要な情報を分かりやすく配置。2022年度調剤報酬改定内容に沿ったリフィル

処方箋の入力、表示も正確に行うことができる。

ファイリングシステムでは、処方箋をスキャンした画像を見ながら医療従事者が処方入力、薬剤師は処方箋の原本をもとに処方監査・調剤と同時に行える。取り込んだ画像は、患者データとして保存でき、投薬ミスの防止や患者からの問い合わせ、監査時の記録として活用できる。

また、医療事故防止のチェック機能として、医薬品データベースによる相互作用、病態などの自動チェック機能のほか、薬物動態学的セーフティマネジメントシステム「PHACOSAM」（ファコサム）では、TDM対象薬物・小児薬用量の薬物動態的評価、そして腎機能評価予測値を推算することで腎排泄型薬剤の処方監査の強化につながる。

オプションの在庫管理システムを導



入すれば、処方入力時に薬剤の在庫数の確認が可能となり、発注タイミングも容易に判断できる。

さらに、連携する電子薬歴システム「SOAP.Q&S i-PROUD」（アイクラウド）は、従来からの基本性能はそのままに、前回処方に薬歴で次回確認したいことを申し送りとして記録し、再来時の調剤前に確認したい事項をポップアップさせて、薬歴管理の継続性を実現し、質の高い安心・安全な薬物治療を実現する。

レセコン一体型の利点として、オンライン資格確認での薬剤情報、健診情報の取り込みなどシームレスに連携することが可能。

2025年3月を目標に掲げられている電子処方箋の普及においては、オンライン資格端末と全てが同一ネットワーク内にあることから、電子薬歴システム側でH P K Iカードを用いて薬剤師が調剤確定や疑義照会内容を報告し、電子処方箋サーバに返すことができるという大きなメリットがある。

薬事日報
新聞 + 電子版

読みなれた新聞やパソコンだけじゃなく
スマートフォンだとこんなに便利!

- ・外出中に...
- ・通勤中に...
- ・出張中に...

スマートフォンでいつでもどこでも**薬事日報**

新聞1年契約なら
+5,500円/年 (税込)

〈詳細やお申し込みは〉
<https://www.yakuji.co.jp/>

スマートフォンは
こちらから>>

第55回 日本薬剤師会学術大会

(順不同)

株式会社 ジョヴィ

代表取締役社長 人見 比出樹

〒542-0081 大阪市中央区南船場四丁目二番四号

電話 〇六(六二二五)七〇〇八

株式会社 I L ファーマ パッケージング

代表取締役社長 森 雅弘

〒491-0804 愛知県一宮市千秋町佐野字清水十

電話 〇五八六(七六)一六一二

株式会社 常磐植物化学研究所

代表取締役社長 富山 泰

〒389-0697 長野県埴科郡坂城町大字上五明字東川原一九八

電話 〇二六八(八二)二二二一

小松屋株式会社

代表取締役 小 林 宏 輔

〒541-0056 大阪府大阪市中央区久太郎町一丁目一八

電話 〇六(六二七)六三〇〇

新クラウドサービスを展開

富士フィルムヘルスケアシステムズ 「Pharma-SEED Link II」

富士フィルムヘルスケアシステムズは、2018年にサービスを開始した「Pharma-SEED Link」を大幅にリニューアルした新オプションクラウドサービス「Pharma-SEED Link II」を17日から提供開始する。オンプレミスとクラウド双方のメリットを生かした安心・安全な電子薬歴システムとなっており、レセコン一体型電子薬歴システム「Pharma-SEED EX」と「Pharma-SEED Link II」をセットにし、「ハイブリッド型電子薬歴システム」として販売をスタートさせる予定だ。

レセコン一体型電子薬歴システム「Pharma-SEED EX」は、薬局経営を支援する機能として、①かかりつけ薬

局支援機能②在宅業務支援機能③収益率向上支援機能——を強化し、安全できめ細やかなサービスを求められる薬局業務と経営を両面からサポートするクラウド活用の電子薬歴システムとなっている。

今回同システムとセットで新発売する「Pharma-SEED Link II」では、接続端末数が無制限となっており、在宅支援端末としての活用はもちろん、薬局内の薬歴端末運用として薬剤師1人当たり1台での運用が可能になっている。オンプレミスとクラウドの双方のメリットを生かしたハイブリッド型であることから、自然災害による緊急時など、もしもの時のBCP対策にもつ



ながっている。また服薬指導についても、服薬支援ナビゲーションで的確な服薬指導をサポートできる。処方変更内容や薬品ごとに指導すべき項目を表示し、服薬指導に必要なデータベースも搭載しているため、細やかな指導の支援が可能だ。薬歴記録支援機能も充実しており、薬剤師業務の大幅な効率

化を支援する。

さらに同社は、富士フィルムグループであるメリットを生かし、同グループが提供している一包化監査支援システム「PROOFIT 1D II」(富士フィルム富山化学製)とも連携し、薬剤の一包化ニーズにも対応している。監査業務の安心・安全にも貢献していく。

対物から対人への移行を支援

東邦薬品「FutureENIF-WEB」

顧客の声を反映しシンプル操作による医薬品の発注に特化したシステムとして、東邦薬品が5月にリリースしたウェブ発注システム「FutureENIF-WEB」だ。

ウェブ画面からログインをして使用。オプションの専用バーコードスキャナーを使用することにより、GS1データバーからもスキャンして発注ができるため、包装箱を廃棄した場合でもバーコードからの発注が可能。他にも商品名、一般名、漢方番号から商品検索ができ、採用品目は一覧の上位に表示されるため、商品選択が簡単なのが特徴。

また、1回でもマウスのクリックを減らしたいという得意先の声を実現するため、連続した商品名検索がしやすい工夫も凝らしている。レセコンとの連動や需要予測自動発注などの機能は

ないが、発注数量を入力後、カートに入れ、送信する商品を選択してOKボタンをクリックするだけで発注が完了する。

タブレット端末でも使用でき、通信環境(推奨ブラウザ・Google chrome)さえ確保されていれば在宅訪問先からも発注が可能のため、発注から納品までのタイムラグを短縮。医薬品医療機器総合機構(PMDA)のサイトにリンクしており、ワンクリックで最新の添付文書を開覧することもできる。

発注するタイミングがますますでない場合、例えば「明日の午前」「来月初め」といったように、日時ごとのカートに予め登録しておくことができる。

ENIFは医薬品発注・情報端末機として1997年に誕生し、関連する多様なサービス・機種を展開してきた。2019年にSIMカードを内蔵した端

末「Future ENIF

(フューチャーエニフ)」をリリースし、現在5000軒を超える得意先で採用されている。インターネットによる高速通信と大容量データ通信、調剤包装単位GS1データバーに対応し、調剤棚から移動せずその場で発注送信ができるため、FAXや電話発注に比べ、発注作業に時間を取られない。

東邦薬品は発注システムのラインナップとして、「ねっとde ENIF」も提供しているが、「Internet Explorer (IE)」の環境でのみ動作するため、IEのサポート終了に伴い、9月末でサービスを終了したことから、「FutureENIF-WEB」をリリースした。得意先の声を最大限に反映し開発さ



れたこれらのサービスによって、対物業務から対人業務へのシフトをサポートする。

調剤薬局の業務改善に、発注管理と在庫管理を兼ねる「ミザル」、ウェブ版の発注に特化した「FutureENIF-WEB」などを揃え、従来のアナログ通信タイプの端末からの切り替えを進めることにより、かかりつけ薬局・薬剤師の機能向上を支援する方針だ。

薬歴の入力時間を大幅に短縮

アクシス「メディクス」

アクシスは、国内初となるクラウド型電子薬歴「メディクス」を提供し、薬局が抱える様々な課題解決をサポートしている。クラウド型電子薬歴であるため、インターネット環境があれば時間や場所を選ばず、薬歴の確認や記載を行うことができ、パソコンだけでなくタブレットPCなど多様な端末で利用が可能。薬局外での訪問調剤、出張先でも使える薬歴システムとなっている。

持ち運びができるだけでなく、薬剤師の業務手順や使いやすさを第一に機能を設計しており、薬歴入力時間を大幅に短縮しているのが大きな特徴だ。メディクスを導入するチェーン薬局の調査では、薬歴記載時間が導入以前は1件につき平均3分かかっていたのが平均1分と、3分の1に縮まったとの報告もある。年間休日120日8時間勤務の場合、約40日間の時間短縮に

つながり、残業削減や服薬指導の質向上が期待される。

服薬指導・薬歴作成に必要な頭書きや処方比較、過去の指導内容が一つの画面で確認できると共に、服薬指導から薬歴作成を迅速に行うために入力サポート機能を搭載。患者の生活習慣や嗜好(頭書き)、処方された薬をもとに、患者の症状に応じた指導例文が2万点用意されているほか、よく使う言葉や文章は薬局オリジナルの指導文として簡単に登録できるため、例文をクリックするだけで入力が可能となる。

前回と今回処方方の差分についても、1クリックで薬歴に自動入力でき、患者の前回来局時の服薬指導内容から今回の服薬指導で必要な確認事項を忘れないようシステムが注意喚起して、継続的な服薬指導をアシストしている。

従来のオンプレミス型の電子薬歴は

薬歴のデータが蓄積されると動作スピードが遅くなり、検索に時間がかかることが指摘されていたが、メディクスは最先端の高速化技術を取り入れているため、10年以上の薬歴データを蓄積しても操作レスポンスの低下がないのも使いやすさを支える。

複数店舗の薬歴を管理できる機能も搭載しており、特に店舗数が多いチェーン薬局には好評だ。店舗ごとの来局ピーク時間や地域別データなども集計できるほか、グループ店舗で「未入力」や「保留」になっている薬歴の数を集計し、見える化することで薬歴未記載を未然に防ぎ、監査や指導にも役立てる。

そのほか、訪問調剤や24時間対応、処方チェック、疑義照会にも対応。オ



電子薬歴 Medixs[®]

プション機能には、病名登録、処方からの逆引きによる「疾病監査機能」で処方チェックする機能や、OTC医薬品と処方薬の併用薬監査機能、DSU情報が発出された医薬品をチェックする機能、服薬中のフォローアップ機能、オンライン服薬指導などを有し、幅広く薬局のニーズに対応している。



2022年度「調剤報酬改定」の要点をわかりやすくまとめて解説

調剤報酬実務必携

2022年4月版

北海道医薬総合研究所 編著

A6変形判/102頁/定価500円+税10%



詳細はこちらから

当ファイルの著作権は(株)薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル(印刷物含む)の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル(印刷物含む)を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。

株式会社薬事日報社 TEL:03-3862-2141 shinbun@yakuji.co.jp http://www.yakuji.co.jp/

社名が変わりました。*

新たな信頼をお届けするのは 富士フイルムヘルスケアシステムズです。

FUJIFILM
Value from Innovation



※Pharma-SEED EXの販売会社・日立ヘルスケアシステムズ株式会社は
2021年3月より富士フイルムヘルスケアシステムズ株式会社に社名を変更しました。

- シンプル・見やすい電子薬歴
- クラウド標準対応で在宅・訪問先などからも24時間アクセス可能
- 複数店舗の経営支援を本部管理クラウドで実現



ハイブリッド型電子薬歴システム

Pharma-SEED EX

スマホ・タブレットからPCまでマルチデバイス対応 ひとり1台の運用が可能

NSIPS® 対応機器
NSIPSとは、日本薬剤師会が提案する薬局向けコンピューターシステム間の連携システムです。
NSIPSは公益社団法人福岡県薬剤師会の登録商標です。
(商標登録 第5214610号)

●Pharma-SEED は富士フイルムヘルスケアシステムズ株式会社の登録商標です。●その他記載の会社・団体名、製品名は各社の登録商標または商標です。

富士フイルムヘルスケアシステムズ株式会社
〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-31-1 日本生命五反田ビル <https://www.fujifilm.com/hcs/ja/>

製品の詳細は
こちら▶▶▶



富士フイルム 薬歴 検索

Medixs[®] メディクス

訪問調剤に 強い薬歴

クラウド型だから
「いつでも・どこでも」利用可能

導入の事例をご紹介

◆ HYUGA PRIMARY CARE Co.,Ltd.

日本初のクラウド型電子薬歴システム『メディクス』「きらり薬局」に導入決定

～横浜、千葉を中心とした関東エリアの店舗に導入されました～

クラウド型電子薬歴 Medixs が HYUGA PRIMARY CARE 株式会社の運営する『きらり薬局』の薬歴システムとして採用されました。
7月5日より神奈川県横浜市市内の店舗をはじめ、関東エリアの店舗に導入されます。
きらり薬局は「患者が24時間365日、自宅で安心して療養できる社会インフラを創る。」をビジョンに全国に38店舗を展開する調剤薬局です。
アクシスは、きらり薬局が目指す訪問調剤での安全で質の高い服薬指導の取り組みをメディクスで支援します。

きらり薬局様 展示会出展情報
第55回日本薬剤師会学術大会
日程：2022年10月9日(日)～10月10日(月祝)
場所：仙台国際センター

☎ 03-6427-9800 お気軽にお問い合わせください
(平日受付 09:00～18:00)

※ 電子薬歴『Medixs』『メディクス』はアクシスルートホールディングス株式会社の登録商標です。※ 文中に記載された会社名および製品名などは該当する各社の登録商標または商標です。



株式会社アクシス
〒100-0011 東京都千代田区内心町二丁目1番1号
飯野ビルディング9階(クロスオフィス日比谷内)

© 2022 Axis, Inc.

sawai

お薬の情報を迅速に、的確に

多様化する患者様のご要望や、お薬の疑問にお答えするために、医療機関への医薬品に関する情報提供も、沢井製薬の大切な役目です。サワージェネリックを安心してご使用いただくため、安全管理情報の収集と迅速な提供に取り組んでいます。

- 全国9支店 10営業所 約380人のMR
- 医薬品情報センターの開設
 - ・ お問い合わせ件数 年間 約49,800件
 - ・ 薬剤師資格を持ったコミュニケーターによる24時間365日の対応
- RMP 医薬品リスク管理計画
- 副作用に関する研究報告
- 製造販売後調査

製品に関する資料のご請求やお問い合わせはこちらから



■ 医療関係者向け総合情報サイト
<https://med.sawai.co.jp/>

■ お問い合わせ窓口
 医薬品情報センター 0120-381-999



なによりも患者さんのために

沢井製薬

2022年6月作成

マニュアル要らず / 使いやすさで選ばれています

保険薬局様向け
レセプトコンピュータ

調剤くんV7



1 ユーザーファーストの徹底と追及

お客様、患者様にとって、どのような機能やサービスが必要なのかを第一に考え、使いやすさ、分かりやすさを日々追及しています。

- お客様の声を重視
- 使いやすさの追及
- 安心のサポート

2 変化に素早く対応

かかりつけ薬剤師、在宅療養支援、服用期間中フォローアップなど、刻々と変化する環境に素早く対応してソリューションを提案し続けています。

- かかりつけ薬剤師
- 在宅療養支援
- 服用期間中フォローアップ
- オンライン資格確認

3 保険薬局をご支援

システムではありません。経営相談や改正情報の発信から分析まで、セミナー、研修、経営相談、人材育成、薬局経営全般をバックアップします。

- 経営相談
- 業務改善
- 経営セミナーの開催
- M&A支援

長年にわたり
調剤くんが選ばれてきた
理由は3つあります!

Pick Up!

運用にあわせて拡張性の高い運用をご提案

オプション 服用期間中フォローアップ支援システム

服用期間中フォローアップ支援システムは、SMS送信、ビデオ通話発信、薬歴作成を1つの画面で行えるシステムです。患者様と話した内容は、自動でテキスト表示され、「電子薬歴」や「処方外薬歴」へコピーすることができます。近年需要が高まっている、非対面での服薬指導ニーズに対応致します。



オプション マネジメント本部システム

チェーン薬局向け経営管理システムです。ダッシュボード表示を採用することにより本部で経営幹部の方が各店舗の日計、月計、来局患者数及びレセプト請求の実行状況等の経営データが面倒な操作なしに瞬時に確認、閲覧することができます。

本システムはNSIPS データを利用し集計することによりレセプトコンピュータメーカー問わず導入できます。クラウドにより初期導入コスト、月額利用料も安価でご利用いただけます。



※NSIPS®(エヌシップス)は公益社団法人日本薬剤師会の登録商標です。

Best direction with you
最適な答えを、あなたとともに
株式会社 ネグジット 総研

本社 兵庫県神戸市中央区江戸町85番1
 ベイ・ウイング神戸ビル5階
 東京 東京都世田谷区代沢5-6-11
 新潟 新潟県新潟市西区平島3-5-13 Yビル1階
 名古屋 愛知県名古屋市中区錦1-3-7
 SKアディット桜通り3階
 高松 香川県高松市伏石町2034-1
 高知 高知県高知市北久保10-16
 北久保468ビル
 福岡 福岡県福岡市東区箱崎ふ頭3-4-46 2階
 [ホームページ] www.nexttit.co.jp

オプションを動画で紹介しております。
 また、調剤報酬改定情報、薬局経営に役立つ
 情報を定期的に配信しています。
<https://v7.chouzai-sys.com/channel>

